

獣医師国家試験  
出題基準  
(平成21年改正)

平成21年3月

獣医事審議会

## 留 意 事 項

1. 本出題基準は、獣医師国家試験の出題に際して準拠する項目として整理したものである。

2. 本出題基準は、卒前教育の全てを網羅したものではなく、またそれを拘束するものでもない。

3. 本出題基準は、以下の4つのカテゴリに編成されている。

獣医療の基本的事項

獣医学の基本的事項

衛生学に関する事項

獣医学の臨床的事項

4. 大・中・小項目、備考については、おおむね次のような考え方で分類している。

大項目…中項目を範ちゅう毎に総括する見出し的なものである。

中項目…中心的な設問対象となるものであり、標準的な教科書に記載されている程度の知識を要求するものとする。

小項目…より詳細な知識を要求する事項や重要な用語について記載する。

備 考…参考となる事柄を記載する。但し、出題範囲を限定するものではない。

5. 本出題基準は、平成21年度に実施する第61回獣医師国家試験より適用される。

6. 第61回以降の獣医師国家試験の出題内容と出題数は、別表のとおりである。

7. 必須問題については、

○『獣医療の基本的事項』（おおむね3割）

○『獣医学の基本的事項』、『衛生学に関する事項』、『獣医学の臨床的事項』のうち、獣医師として必ず備わっていなければならない事項及び動物あるいは公衆衛生に対して重大な影響を与える非常に重要な事項（おおむね7割）

より出題するものとする。

8. その他の注意事項は、以下のとおりである。

(1) 各項目におけるカッコは、以下のルールにより使用している。

( ) : 省略しても意味または分類の変わらない語句。

< > : 直前の語句の言い換えまたは説明。

[ ] : < > の中に < > が存在する場合の大きな括り。

《 》 : 対象となる動物種を制限する場合、対象となる動物種を明記する場合。

【 】 : 補足説明。

(2) 衛生学に関する事項の「Ⅲ人獣共通感染症」は、公衆衛生上重要なものに限定して記載しているが、その疾病名は、獣医学の臨床的事項の「Ⅰ感染症」と必ずしも一致しない。

(3) 獣医学の臨床的事項においては、中項目または小項目に掲げられた疾病・障害名に関する「病因、病原性、疫学、病理、病態生理、症状、検査、診断、治療、予防（防疫）、予後」について、標準的な学生用の教科書に記載されている程度の内容を出題範囲とする。

(4) 獣医学の臨床的事項においては、ミツバチ、実験動物及び魚を除く飼育動物を出題の対象とする。

(5) 獣医学の臨床的事項の「Ⅰ感染症」については、原則として、

○ 家畜伝染病予防法に基づく家畜伝染病又は届出伝染病

○ 我が国の獣医療現場において発生が認められる等比較的重要なもの  
のいずれかに該当するものを出題範囲としている。

(6) 備考中の表記(法)及び(届)は、それぞれ家畜伝染病予防法に基づく「家畜伝染病」及び「届出伝染病」であることを示している。

(別表) 獣医師国家試験の出題内容と出題数

	第61回(平成21年度)以降	第60回(平成20年度)まで
必須問題	<p>出題内容: 「獣医療の基本的事項」及び、 「獣医学の基本的事項」、「衛生学に関する事項」、「獣医学の臨床的事項」のうち重要な事項 出題数 : 50問</p>	/
学説A	<p>出題内容: 「獣医学の基本的事項」 出題数 : 80問</p>	<p>出題内容: 「獣医療の基本的事項」、 「獣医学の基本的事項」 出題数 : 100問</p>
学説B	同右	<p>出題内容: 「衛生学に関する事項」、 「獣医学の臨床的事項」 出題数 : 80問</p>
実地C	同右	<p>出題内容: 原則として「衛生学に関する事項」、「獣医学の臨床的事項」について、獣医療現場で実際に起こりうる症例・事例に関する基本的かつ重要な事項 出題数 : 60問</p>
実地D	同右	<p>出題内容: 原則として「衛生学に関する事項」、「獣医学の臨床的事項」について、獣医療現場で実際に起こりうる症例・事例に対する対処方法等の総合的な事項 出題数 : 60問</p>

# 目 次

獣医療の基本的事項	1
I 獣医師としての倫理（態度）、法、制度	2
獣医学の基本的事項	5
I 構造と機能	6
II 薬理作用と毒性作用	11
III 生殖	17
IV 病原体と寄生体	19
V 発症機序と病理・病態	22
VI 主要症候	26
VII 検査と診断	30
VIII 治療と処置	35
衛生学に関する事項	40
I 公衆衛生と獣医衛生	41
II 食品衛生	43
III 人獣共通感染症	46
IV 動物の飼育・衛生管理	49
V 魚類の飼育・衛生管理	53
VI 環境衛生	56
獣医学の臨床的事項	58
I 感染症	59
II 中毒	66
III 呼吸器系の疾患	67
IV 循環器系の疾患	68
V 消化器系の疾患	70
VI 泌尿器系の疾患	73
VII 繁殖障害と生殖器系の疾患	74
VIII 運動器系の疾患	77
IX 神経系の疾患	79
X 感覚器系の疾患	81
X I 血液・免疫系の疾患	82
X II 内分泌・代謝系の疾患	83
X III 皮膚の疾患	85
X IV 乳房・乳腺の疾患	87
X V 新生子の疾患	88

# 獣医療の基本的事項

獣医師としての業務を遂行するに際して必要な倫理・規範的知識並びに法的知識及びこれらに関連する行政の仕組みについて、獣医師を取り巻く社会情勢の変化、獣医療を取り巻く社会的問題にも配慮した上で体系的に網羅する。

## I 獣医師としての倫理（態度）、法、制度

大項目	中項目	小項目	備考
1. 獣医倫理	A 獣医倫理	a 獣医師としての責務 b 社会的責任 c 法の遵守	
	B 飼育動物の所有者との関係	a インフォームドコンセント b 情報開示 c 個人情報の保護 d 飼い主の意向の尊重 e 飼い主の心理	
	C 動物愛護	a 動物実験に関わる倫理 b 動物実験と法規 c 個体識別	
2. 診療情報と諸証明	A 診療簿、検案簿	a 診療簿・検案簿の管理と保存 b 診療簿・検案簿の内容 c 診療情報の開示	
	B 診療に関する諸記録	a 処方箋、指示書 b 検査所見記録 c 手術記録 d 画像記録 e 診断書 f 出生証明書 g 死産証明書 h 検案書	
3. 獣医療の質と安全の確保	A 獣医療の質の確保	a 最新の獣医学的知見 b 研修 c 診療施設の連携 d GLPと安全性試験	
	B 獣医療事故の防止	a 獣医療過誤と獣医療事故 b 医薬品管理 c 医療廃棄物処理	
	C 医薬品・医療機器の副作用と不具合	a 有害事象と副作用 b 副作用への対応	
4. 社会と獣医療	A 統計分析	a 家畜衛生関係統計 b 公衆衛生関係統計	
	B 獣医療と社会との調和	a 家畜共済制度 b 遺伝子組換え技術 c 学校飼育動物	
5. 行政機関	A 家畜衛生組織	a 農林水産省【動物検疫所、動物医薬品検査所を含む。】 b 動物衛生研究所 c 都道府県【家畜保健衛生所を含む。】 d 自衛防疫団体	
	B 公衆衛生組織	a 厚生労働省【検疫所、国立研究所を含む。】	

大項目	中項目	小項目	備考
6. 獣医行政法規	<p>C 国際機関</p> <p>A 獣医事・薬事関連法規</p> <p>B 家畜衛生行政関連法規</p> <p>C 公衆衛生行政関連法規</p> <p>D 環境行政関連法規</p> <p>E 水産関連法規</p>	<p>b 都道府県【保健所、動物愛護管理センター等を含む。】</p> <p>c 食品安全委員会</p> <p>a WHO</p> <p>b OIE</p> <p>c FAO</p> <p>a 獣医師法</p> <p>b 獣医療法</p> <p>c 薬事法</p> <p>d 毒物及び劇物取締法</p> <p>e 麻薬及び向精神薬取締法</p> <p>f 覚せい剤取締法</p> <p>a 家畜伝染病予防法</p> <p>b 家畜保健衛生所法</p> <p>c 飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律</p> <p>d 牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法</p> <p>e 家畜改良増殖法</p> <p>f 牛海綿状脳症対策特別措置法</p> <p>g 家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律</p> <p>a 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律</p> <p>b 狂犬病予防法</p> <p>c 検疫法</p> <p>d と畜場法</p> <p>e 化製場等に関する法律</p> <p>f 食品衛生法</p> <p>g 地域保健法</p> <p>h 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律</p> <p>i 食品安全基本法</p> <p>a 動物の愛護及び管理に関する法律</p> <p>b 廃棄物の処理及び清掃に関する法律</p> <p>c 愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律</p> <p>d 環境基本法</p> <p>e 遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律</p> <p>f 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律</p> <p>a 持続的養殖生産確保法</p>	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
		b 水産資源保護法 c 薬事法	

# 獣医学の基本的事項

飼育動物の診療といった獣医師としての職能を身につける上で、必要不可欠な基礎となる獣医学の分野を体系的に網羅する。

区 分	主な関連科目
I 構造と機能	獣医解剖学、獣医生理学、獣医生理化学、 獣医微生物学、獣医臨床繁殖学
II 薬理作用と毒性作用	獣医薬理学、毒性学、実験動物学
III 生殖	獣医生理学、獣医臨床繁殖学
IV 病原体と寄生体	獣医微生物学、獣医寄生虫（病）学
V 発症機序と病理・病態	獣医病理学、獣医微生物学、獣医外科学、 獣医伝染病学
VI 主要症候	獣医内科学、獣医外科学、 獣医臨床繁殖学
VII 検査と診断	獣医病理学、獣医微生物学、 獣医寄生虫（病）学、獣医内科学、 獣医外科学、獣医臨床繁殖学、 獣医放射線学、獣医伝染病学
VIII 治療と処置	獣医内科学、獣医外科学、 獣医臨床繁殖学、獣医放射線学

## I 構造と機能

大項目	中項目	小項目	備考
1. 生体の基本構造と機能	A 細胞の構造と機能	a 核	
		b 細胞質	
		c 細胞小器官	
		d 細胞膜	
		e 細胞骨格	
		f 細胞の増殖〈有糸分裂、減数分裂〉	
		g 細胞間結合	
		h アポトーシス	
B 組織の構造と機能	a 上皮組織		
	b 支持組織〈結合組織、軟骨組織、骨組織〉		
	c 筋組織		
	d 神経組織		
	e 胚葉〈外胚葉、中胚葉、内胚葉〉		
	f 間葉組織		
C 生体構成物質の構造と特性	a 糖質		
	b 脂質		
	c タンパク質、アミノ酸		
	d 核酸、ヌクレオチド		
	e 無機質、ビタミン		
D 細胞の環境とホメオスタシス	a 体液の組成		
	b 体液とその区分		
	c 体液のpH〈酸塩基平衡〉		
	d 体液量の調節		
E 細胞膜を介する物質輸送	a 細胞膜の性質		
	b 担体輸送〔能動輸送、促通〈促進〉拡散〕		
	c イオンチャネル		
	d 膜動輸送〈サイトーシス〉		
F 細胞の興奮発生と興奮伝導	a 静止膜電位と $\text{Na}^+$ - $\text{K}^+$ ポンプ		
	b 活動電位と電位依存性イオンチャネル		
	c 跳躍伝導		
G 情報伝達	a 細胞間情報伝達〈ホルモン、神経伝達物質、細胞増殖因子、サイトカイン、オータコイド〉		
	b 受容体〈細胞膜受容体、細胞内受容体、核内受容体〉		
	c 細胞内情報伝達系〈セカンドメッセンジャー、リン酸化反応〉		
H 遺伝情報の発現とタンパク質合成	a 遺伝情報とその発現〔DNAの合成、遺伝子の発現〈転写〉、遺伝子とその異常〕		
	b タンパク質の合成〈翻訳〉		

大項目	中項目	小項目	備考	
2. 呼吸器系	I 物質代謝	a 糖質の代謝〔解糖とクエン酸サイクル〈回路〉、血糖調節、糖新生、グリコーゲン代謝、ペントースリン酸回路〕 b 脂質の代謝〈合成と分解、輸送と蓄積、ケトン体〉 c アミノ酸の代謝〈分解と合成〉 d 核酸代謝〈合成と分解〉 e 酵素、補酵素 f 臓器相関		
	J 生体エネルギーの産生	a エネルギー代謝〈自由エネルギー、ATP、生体酸化〉 b 呼吸鎖と酸化的リン酸化 c クエン酸サイクル〈回路〉 d エネルギー代謝の測定〈呼吸商、基礎代謝量〉 e 発酵		
	K 体温調節	a 熱産生と熱放散 b 体温〈内温動物、外温動物、核心温度、外殻温度〉 c 体温調節機構と異常体温		
	A 呼吸器系の発生	a 気管・気管支・肺の発生		
	B 呼吸器系の構造と機能	a 呼吸器〈外鼻、鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺〉 b 鶏の呼吸器 c 肺におけるガス交換と肺循環 d 血液のガス運搬とpH調節作用 e 呼吸調節 f 呼吸器系の防御機構 g 気道反射		
	C 胸腔・胸膜の構造と機能	a 心膜 b 心膜腔 c 縦隔 d 呼吸運動 e コンプライアンスと胸腔		
	3. 循環器系	A 循環器系の発生	a 心臓・動脈系・静脈系の発生	
		B 血管系の構造と機能	a 血管〈動脈系、静脈系、毛細血管、吻合〉 b 心臓 c 心臓の自動性〈刺激伝導系〉 d 心臓の電気的活動 e 心臓の収縮と心周期 f 心臓の神経性・内分泌性調節 g 循環力学と血圧調節 h 特殊部位の循環	

大項目	中項目	小項目	備考		
4. 消化器系	C リンパ系の構造と機能	i 微小循環			
		a リンパ管〈乳び槽、胸管〉			
		b リンパ節			
		c 粘膜付属リンパ組織〈孤立リンパ小節、集合リンパ小節、扁桃〉			
		d リンパ中心			
		e 血リンパ節			
		f 脾臓			
		g 胸腺			
		h ファブリキウス嚢			
		A 消化器系の発生	a 口蓋・消化管・消化腺の発生		
B 消化器系の構造と機能	a 口〈口腔、歯、舌、口唇、頬、口蓋〉				
	b 消化管〈咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肛門〉				
	c 消化腺〈口腔腺、肝臓・胆嚢、膵臓〉				
	d 反芻動物の胃				
	e 鶏の消化器				
	f 消化管機能の調節				
	g 胃腸管の運動				
	h 唾液・胃液・膵液・胆汁・腸液の分泌				
	i 栄養物の消化と吸収				
	j 反芻動物の消化と吸収				
k 栄養素の利用					
l 消化管ホルモン					
5. 泌尿器系	C 腹腔・腹膜の構造と機能	a 腸間膜			
		b 網膜			
		c 網嚢			
		d 間膜			
		A 泌尿器系の発生	a 腎臓・尿管・膀胱の発生		
		B 泌尿器系の構造と機能	a 腎臓、尿管、膀胱、尿道		
			b 鶏の泌尿器		
			c 糸球体濾過		
			d 尿細管の機能		
			e 尿の濃縮と希釈		
f 腎機能の調節					
g 酸塩基平衡					
h 腎臓のホルモン					
6. 生殖器系	A 生殖器系の発生		a 雄性生殖器・雌性生殖器の発生		
			B 雄性生殖器系の構造と機能	a 雄性生殖器〈精巣、精巣上体、精管、精索、副生殖腺、陰茎、陰嚢〉	
		b 鶏の雄性生殖器			
		C 雌性生殖器系の構造と機能		a 雌性生殖器〈卵巣、卵嚢、卵管、子宮、膣、外部生殖器〉	

大項目	中項目	小項目	備考
7. 運動器系	A 運動器系の発生	b 胎盤 c 鶏の雌性生殖器	
	B 骨の構造と機能	a 骨・軟骨・筋の発生 a 緻密骨〈皮質骨〉、海綿骨、骨髄 b 骨格〈頭蓋、脊柱、胸郭、前・後肢骨、骨盤〉 c 鶏の骨格 d 骨代謝	
8. 神経系	C 筋の構造と機能	a 骨格筋〈頭頸部、背部、胸部、腹部、腰部、前・後肢〉 b 心筋 c 平滑筋 d 筋の収縮機構 e 筋紡錘とゴルジの腱受容器〈腱紡錘〉 f 神経筋伝達 g 筋の代謝と疲労	
	D 関節の構造と機能	a 軟骨の構造と代謝 b 滑膜 c 関節	
9. 感覚器系	E 腱、靭帯の構造と機能		
	A 神経系の発生	a 中枢神経系・末梢神経系の発生 b 神経堤細胞	
	B 中枢神経・末梢神経の構造と機能	a 脊髄と伝導路 b 脳〈大脳、間脳、中脳、小脳、橋、延髄〉 c 脳室、延髄中心管、脊髄中心管 d 体性神経系〈脳神経、脊髄神経〉 e 自律神経系〈交感神経、副交感神経〉 f 細胞構成〈ニューロン、グリア細胞〉 g シナプス、神経伝達物質 h 運動系伝導路と運動制御系 i 感覚系伝導路 j 反射弓 k 血液-脳関門と脳脊髄液 l 情動と本能行動	
	A 感覚器系の発生	a 視覚器・平衡聴覚器の発生	
	B 感覚器系の構造と機能	a 視覚器 b 平衡聴覚器 c 嗅覚器〈嗅粘膜〉 d 味覚器〈味蕾〉 e 特殊感覚〈視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚〉	

大項目	中項目	小項目	備考
10. 血液、造血器系	A 血液・造血器系の発生 B 血液・造血器の構造と機能	f 体性感覚 a リンパ球の発生〈遺伝子再構成〉 a 骨髄、リンパ組織、脾臓 b 血液細胞〈赤血球、白血球、血小板〉 c 凝固・線溶系 d 血漿タンパク質	
11. 内分泌系	A 内分泌系の発生 B 内分泌系の構造と機能	a 下垂体・松果体・咽頭腸・副腎の発生 a 視床下部、下垂体、松果体 b 甲状腺、上皮小体 c 副腎 d 膵島 e 生殖腺〈精巣、卵巣〉 f 腎臓、肝臓、胸腺、心臓、消化管、胎盤 g ホルモンの種類 h ホルモンの合成・分泌とその調節 i ホルモンの作用機序 j 内分泌と代謝	
12. 外皮	A 外皮の発生 B 外皮の構造と機能	a 皮膚とその付属器の発生 a 皮膚 b 付属器〈角質器、皮膚腺、乳腺、変形腺〉	
13. 免疫	A 免疫系の構造と機能	a 免疫器官〈骨髄、胸腺、リンパ節、ファブリキウス嚢、脾臓、扁桃、パイエル板〉 b 免疫担当細胞〔リンパ球〈T細胞、B細胞、NK細胞〉、抗原提示細胞〈マクロファージ、樹状細胞、B細胞〉] c 免疫グロブリン d 補体 e サイトカイン f 自然免疫と獲得免疫 g 免疫応答とその調節 h 抗原の認識〈MHC拘束性〉 i 免疫寛容と自己免疫	

## II 薬理作用と毒性作用

大項目	中項目	小項目	備考
1. 薬理学と毒性学	A 薬理学 B 毒性学		
2. 薬理作用と毒性作用の基本概念	A 薬理・毒性作用の種類 B 主作用と副作用		
3. 化学物質〈医薬品、毒性物質〉の体内動態	A 化学物質の生体内進入〈投与、暴露〉経路  B 体内動態と環境中動態 C 膜透過と吸収  D 分布  E 代謝〈生体内変化〉  F 代謝と毒性発現に影響する因子  G 排泄  H 血中動態	a 投与 b 意図的暴露 c 職業的暴露 d 環境暴露  a 生体膜通過〔単純〈受動〉拡散、濾過、担体輸送〔能動輸送、促進〈促進〉拡散〕、酸解離指数〈pKa〉、脂溶性〕 a 血漿タンパク質結合率 b 組織移行 c 蓄積 d 再分布 a 酸化 b 還元 c 加水分解 d 抱合 e ミクロソームと非ミクロソーム酵素系 f シトクロームP450 g 代謝酵素誘導と阻害 h 解毒と代謝的活性化 a 遺伝的要因 b 動物種差 c 生理的要因 d 環境要因 e 代謝酵素の誘導・阻害と薬物相互作用 a 尿細管での分泌と再吸収 b 腸肝循環 c 乳汁中排泄 a コンパートメントモデル b 半減期〈T <sub>1/2</sub> 〉 c 分布容積〈V <sub>d</sub> 〉 d 全身クリアランス e 血中濃度－時間曲線下面積〈AUC〉 f バイオアベイラビリティ〈生物学的利用率〉 g 初回通過効果	
4. 化学物質の生体への影響	A 薬物・毒性物質の種類と薬効	a 作用機序、使用目的による分類 b 化学構造式による分類	

大項目	中項目	小項目	備考
5. 薬理・毒性作用と薬効・毒性の評価	B 化学物質に対する生体防御機構	<ul style="list-style-type: none"> <li>a バリアシステム〈血液脳関門、血液胎盤関門、血液精巣関門〉</li> <li>b 代謝酵素の誘導</li> <li>c 抗酸化酵素の誘導</li> <li>d くみ出し機構〈P-糖タンパク質〉</li> <li>e メタロチオネイン</li> </ul>	
	A 薬理・毒性作用の基本形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 興奮作用</li> <li>b 抑制作用</li> <li>c 直接作用と間接作用</li> <li>d 局所作用と全身作用</li> <li>e 選択毒性</li> <li>f 遅発性毒性</li> <li>g 蓄積作用</li> <li>h 毒性の可逆性</li> <li>i 耐性と依存性</li> </ul>	
	B 薬理・毒性作用の発現機構	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 受容体</li> <li>b 細胞内情報伝達系</li> <li>c GTP結合タンパク質</li> <li>d セカンドメッセンジャー</li> <li>e イオンチャネル</li> <li>f 受容体理論〈pA2、pD2〉</li> <li>g 遺伝子</li> </ul>	
	C 薬理・毒性作用を規定する要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 用量〔対数用量反応曲線、50%有効用量〈ED<sub>50</sub>〉、50%致死量〈LD<sub>50</sub>〉、50%致死濃度〈LC<sub>50</sub>〉、治療係数〈安全域〉〕</li> <li>b 適用法〔経口投与、注射投与〈血管内・外〉〕</li> <li>c 薬物に対する感受性〈種差、系統差、性差、年齢差、個体差〉</li> <li>d 耐性</li> <li>e 相互作用〈協力作用、拮抗作用、競合型拮抗、非競合型拮抗〉</li> <li>f 最大無作用用量〈NOEL〉と最大無有害作用用量〈NOAEL〉</li> <li>g ADI、TDI</li> </ul>	
	D 薬効評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>a 前臨床試験</li> <li>b 臨床試験〈1相～4相〉</li> <li>c 生物学的検定法</li> <li>d 二重盲検法</li> </ul>	
	E 毒性評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>a GLP</li> <li>b 毒性評価試験系</li> <li>c 対照</li> <li>d 信頼性の保証</li> <li>e 危険性の評価</li> </ul>	

大項目	中項目	小項目	備考
6. 環境毒性と環境毒性評価法	A 化学物質の環境中動態	f 一般毒性試験法 g 遺伝毒性試験 h 発癌性試験 i 生殖発生毒性試験 j 吸入毒性試験 k 経皮毒性試験 l その他の特殊毒性試験	
	B バイオアッセイ	a 大気相・水相・土壌相での動態 a 指標生物 b 生物濃縮試験 c 魚毒性試験 d TLm (Median tolerance limit) e Pow (オクタノール/水分配係数)	
7. リスクアナリシス	A リスクアセスメント B リスクマネージメント C リスクコミュニケーション		
8. 動物実験法	A 疾患モデル動物	a 種類 b 開発と維持	
	B 動物実験技術	a 保定法 b 識別法 c 投与方法 d 試料採取法 e 麻酔法	
9. 末梢神経系に対する作用	A 局所麻酔薬		
	B コリン作動薬	a コリン誘導体 b アルカロイド類	
	C コリン作動性効果遮断薬	a ムスカリン受容体遮断薬	
	D 神経筋接合部遮断薬 (筋弛緩薬)	a 競合型遮断薬 b 脱分極遮断薬	
	E 自律神経節作用薬	a 神経節興奮薬 b 神経節遮断薬	
	F コリンエステラーゼ阻害薬	a カルバメート化合物 b 有機リン化合物 c 再賦活薬	
	G アドレナリン作動薬	a カテコールアミン b その他の作動薬	
	H アドレナリン作動性効果遮断薬	a $\alpha$ 受容体遮断薬 b $\beta$ 受容体遮断薬 c アドレナリン作動性ニューロン遮断薬	
	I 末梢神経毒性物質	a キノホルム b 遅発性神経毒性	
	10. 中枢神経系に対する作用	A 麻酔薬	a 吸入麻酔薬 b 注射用麻酔薬

大項目	中項目	小項目	備考
11. オータコイド	B 鎮静薬		
	C 鎮痛薬	a オピオイド b オピオイド拮抗薬 c 解熱性鎮痛薬〈非ステロイド系抗炎症薬〉	
	D 抗痙攣薬		
	E 向精神薬		
	F 中枢神経興奮薬		
	G 中枢神経毒性物質		
	A ヒスタミンとその拮抗薬	a H1受容体拮抗薬 b H2受容体拮抗薬	
12. 抗炎症薬	B 5-HT〈セロトニン〉とその拮抗薬	a 受容体拮抗薬 b 再取り込み阻害薬	
	C レニン-アンギオテンシン系とその阻害薬	a アンギオテンシン変換酵素阻害薬 b アンギオテンシン受容体拮抗薬	
	D ブラジキニン		
	E アラキドン酸代謝産物	a プロスタグランジン類 b ロイコトリエン類	
	F 一酸化窒素		
	A 非ステロイド系抗炎症薬		
13. 循環・呼吸系に対する作用	B ステロイド系抗炎症薬		
	A 抗心不全薬	a 強心配糖体 b カテコールアミン類 c 心臓負荷軽減薬	
	B 抗不整脈薬		
14. 血液に対する作用	C 呼吸作用薬	a 呼吸興奮薬 b 鎮咳薬 c 気管支拡張薬	
	D 循環器毒性物質	a アルコール b 重金属 c ドキソルビシン	
	E 呼吸器毒性物質	a パラコート b アスベスト	
	A 血液凝固促進薬		
	B 抗プラスミン薬		
	C 血液凝固抑制薬		
15. 塩類代謝・腎機能に対する作用	D 試験管内凝固防止薬		
	E 血栓溶解薬		
	F 抗貧血薬		
	G 血液毒性物質	a 造血器毒性物質 b 赤血球・ヘモグロビン毒性物質	
	A 塩類代謝作用薬	a 酸性化薬 b 塩基性化薬 c 輸液製剤	
	B 利尿薬	a 浸透圧性利尿薬	

大項目	中項目	小項目	備考			
16. 消化器機能に対する作用	C 尿崩症治療薬 D 腎毒性物質	b ループ利尿薬 c サイアザイド系利尿薬 d カリウム保持性利尿薬 e 炭酸脱水酵素阻害薬	緑内障治療薬			
		a 非ステロイド系抗炎症薬 b アミノグリコシド系抗生物質 c 重金属				
	A 催吐薬 B 制吐薬 C 抗潰瘍薬	a 胃酸抑制薬 b 粘膜保護薬				
		D 下剤〈瀉下薬〉 E 抗下痢薬〈止瀉薬〉 F 鎮痙薬 G 消化器毒性物質				
		17. 内分泌機能に対する作用 【臓器に作用する物質を含む。】		A 副腎皮質ホルモン B 甲状腺機能障害治療薬 C 糖尿病治療薬 D 子宮収縮薬 E ビタミン F 性ホルモン G 内分泌毒性物質	a 外因性内分泌攪乱物質	
				18. その他の臓器に対する作用	A 肝機能毒性物質	a 四塩化炭素 b アフラトキシン c アセトアミノフェン
					B 骨・軟骨組織毒性物質 C 皮膚毒性物質	a 刺激性皮膚炎 b アレルギー性皮膚炎 c 光毒性・光アレルギー性皮膚炎 d 接触性蕁麻疹
					D 遺伝毒性物質 E 生殖発生毒性物質	a DNA損傷・修復 a 雄性生殖器毒性 b 雌性生殖器毒性 c 先天異常
				F 発癌性物質	a イニシエーター b プロモーター c 直接発癌性物質 d 発癌前駆物質	
	G 視覚毒性物質 H 聴覚毒性物質					
		19. 免疫機能に対する作用			A 免疫抑制薬 B 免疫毒性物質	a PCB及びダイオキシン類 b 抗悪性腫瘍薬

大項目	中項目	小項目	備考
20. 消毒薬の作用	A 四級アンモニウム塩〈陽イオン界面活性剤〉 B アルコール類 C ハロゲン化合物 D フェノール類 E 酸化薬 F アルデヒド類 G その他		
21. 化学療法薬、抗真菌薬、抗悪性腫瘍薬の作用	A 合成抗菌性物質 B 抗生物質 C 抗真菌薬 D 抗ウイルス薬 E 抗悪性腫瘍薬	a サルファ薬とその協力物質 b ニューキノロン系 c ニトロフラン誘導体 a ペニシリン系 b セフェム系 c アミノグリコシド系 d マクロライド系 e テトラサイクリン系 f ペプチド類  a アルキル化薬 b 代謝拮抗薬 c 抗生物質 d その他	
22. 駆虫薬の作用	A 線虫駆虫薬 B 条虫駆虫薬 C 吸虫駆虫薬 D 抗原虫薬		
23. 殺虫薬・農薬の作用	A 殺虫薬 B 殺鼠薬 C 除草薬	a 有機リン系 b カルバメート系 c ピレスロイド系 d フェニルピラゾール系 e ネオニコチノイド系 f アベルメクチン系 g 幼虫発育阻害薬	
24. その他	A 重金属拮抗薬 B 天然毒性物質 C 環境汚染物質 D 紫外線、放射線		

### Ⅲ 生殖

大項目	中項目	小項目	備考	
1. 生殖子の形成と成熟	A 卵子の形成と卵胞の発育			
	B 卵子の成熟と排卵			
	C 精子の形成と成熟			
	D 精子の形態と機能			
	E 射精			
2. 性成熟と生殖周期	A 雄・雌の性成熟	a 生殖器の変化 b 春機発動、性成熟期 c 繁殖供用適齢期		
	B 生殖周期	a 完全生殖周期 b 不完全生殖周期 c 季節周期〈周年繁殖、季節繁殖〉 d 日周期		
	C 発情周期〈性周期〉	a 発情周期、月経周期、卵巢周期 b 完全発情周期、不完全発情周期 c 単発情、多発情		
	D 発情周期中の生殖器の変化			
	E 発情周期中のホルモンの変化			
	F 発情期の性行動	a 雄の性行動 b 雌の性行動		
	G 排卵の機序	a 自然排卵 b 交尾排卵		
	H 交配適期			
	3. 受精と着床	A 受精の条件		
		B 受精の過程	a 精子の受精能獲得 b 先体反応 c 多精拒否	
C 胚の発生と発育				
D 着床		a 胚の子宮内分布 b 着床の形式 c 着床過程		
4. 妊娠と胎子発育	A 胎子			
	B 胎水、胎膜、胎子付属物			
	C 胎盤			
	D 妊娠期間			
	E 単胎動物における多胎妊娠			
	F 多胎動物の同期・異期複妊娠			
	G 妊娠とホルモン			
	H 母体の妊娠認識			
	I 妊娠時における母体の変化			
5. 分娩と新生子	A 分娩発来の機序			

大項目	中項目	小項目	備考
	B 分娩前徴 C 産道  D 分娩の経過  E 分娩後の生殖器の修復と 発情回帰  F 泌乳 G 新生子の生理	a 骨部産道 b 軟部産道  a 開口期〈第一期〉 b 産出期〈第二期〉 c 後産期〈第三期〉  a 子宮の修復 b 悪露 c 分娩後の発情	

#### IV 病原体と寄生体

大項目	中項目	小項目	備考	
1. 細菌 【リケッチア、クラミジア、マイコプラズマを含む。】	A 細菌の一般性状	a 形態〈球菌、桿菌、らせん菌〉 b 構造〈莢膜、鞭毛、線毛、細胞壁、細胞質膜、細胞質、核、核様体、細胞質内顆粒、芽胞〉		
	B 細菌の発育と増殖	a 分裂 b 増殖と増殖曲線〈誘導期、対数期、静止期、死滅期〉 c 二種類以上の菌の混在状態における増殖〈共生、拮抗、衛星現象〉 d 培地の組成 e 培地における発育の特徴 f 増殖に必要な物理的条件〈酸素・二酸化炭素の要求性、温度、浸透圧、発育至適pH〉		
	C 細菌の栄養	a 化学合成菌〈自家栄養菌、従属栄養菌〉 b エネルギー源 c 栄養素		
	D 細菌の代謝	a 解糖と発酵 b 合成 c 代謝の調節		
	E 細菌の遺伝と変異	a 核酸の構成と機能 b 修飾、適応 c 突然変異 d その他の変異		
	F 遺伝物質の伝達	a 形質転換 b 接合 c プラスミド d 形質導入 e 遺伝子操作 f トランスポゾン		
	G 細菌の抵抗性	a 物理化学的環境因子〈温度、水分、表面張力、浸透圧、pH、放射線、音波、界面活性剤、殺菌性ガス〉 b 滅菌と消毒		
	H 細菌の分類・同定・性状			
	2. ウイルス	A ウイルスの一般性状	a 定義 b 測定法 c 構造〈基本構造、核酸、カプシド、エンベロープ、ペプロマー〉 d 構成物質〈核酸、タンパク質、脂質、炭水化物〉	
		B ウイルスの増殖過程	a 一段増殖曲線 b 吸着 c 侵入	

大項目	中項目	小項目	備考
	C 感染に伴う細胞の変化	d 脱殻 e 転写と翻訳 f 核酸の複製 g 集合 h 放出 a 細胞変性効果〈CPE〉 b 細胞表面の変化 c 赤血球吸着現象 d 封入体形成 e 染色体異常 f インターフェロン産生と干渉現象 g トランスフォーメーション〈形質転換〉	
	D 感染価の測定法	a 50%組織培養感染量〈TCID <sub>50</sub> 〉 b 50%致死量〈LD <sub>50</sub> 〉 c プラック〈ポック〉形成単位〈PFU〉 d フォーカス形成単位〈FFU〉	
	E ウイルスの精製・培養	a 精製法〈減圧濃縮法、遠心法、沈殿法、赤血球吸着・遊離法〉 b 培養〔実験動物〈マウスほか〉による培養、発育鶏卵による培養〈至適卵齢、接種方法、検卵、解卵、増殖の判定〉、組織培養〈材料、細胞培養方法、培養の種類、増殖の判定〉〕	
	F ウイルスの干渉現象とその応用	a 干渉現象 b インターフェロン c END法 d BEND法	
	G ウイルスの変異	a 変異と変異体 b 誘発突然変異 c 遺伝的組換え d 病原性の変異 e 細胞域変異 f 抗原変異 g 遺伝子再活性化 h 遺伝子再集合 i 相補 j 表現型混合とカプシド変換	
	H 遺伝子操作	k 干渉 a 遺伝子地図 b ベクター c 組換えDNA d 制限酵素	

大項目	中項目	小項目	備考	
3. 真菌	I ウイルスの不活化	a 機序〈核酸の損傷、タンパク質の変性、エンベロープの破壊〉 b 作用要因〈物理的作用、化学的作用〉		
	J ウイルスの分類・同定・性状			
	A 真菌の一般性状	a 真菌細胞の微細構造 b 真菌体の構成単位 c 菌糸 d 担孢子体 e 孢子		
	B 真菌の培養			
	C 真菌の遺伝と分類	a 遺伝学的事項〔世代交代、アナモルフ〈無性型〉、テレオモルフ〈有性型〉、性〈雌雄同株、雌雄異株〉] b 子嚢菌 c 担子菌 d 接合菌 e 有糸分裂〈無性〉 孢子形成群〈不完全菌類〉 f 鞭毛菌		
	4. 寄生虫	A 一般性状	a 分類〈原虫、蠕虫、節足動物〉 b 宿主〈終宿主、中間宿主、待機宿主、媒介宿主〉	
		B 寄生現象	a 宿主特異性、寄生部位特異性 b 形態変化	
		C 発育と増殖	a 変態、感染型 b 生殖〈有性・無性生殖、世代交番、単為生殖、幼生生殖〉 c 春季顕性化現象、自家治癒、発育停止 d 体内移行 e プレパテントピリオド	
		D 寄生虫の分類と同定		
		E 原虫類の形態と生活環	a 肉質鞭毛虫類 b アピコンプレックス類 c 繊毛虫類 d 微孢子虫類	
F 蠕虫類の形態と生活環		a 吸虫類 b 鉤頭虫類 c 条虫類 d 線虫類		
G 節足動物の形態と生活環		a ダニ類 b 昆虫類		

## V 発症機序と病理・病態

大項目	中項目	小項目	備考
1. 病因論	A 内因	a 素因	
	B 外因	a 物理学的外因 b 化学的外因 c 生物学的外因 (ウイルス、細菌、真菌、寄生虫)	
	C その他	a 医原病 b 宿主-寄生体関係	
2. 感染	A 宿主・寄生体関係	a 病原性 b 非病原性 c 毒力 (ビルレンス、菌力) d コッホ (Koch) の条件	
	B 感染と発症機序	a 顕性感染 b 不顕性感染 c 潜伏期 d 侵入門戸 e 病原体の体内伝播 f 宿主側の状態 [持続感染、保菌、菌血症、ウイルス血症、敗血症、日和見感染 (自発性感染)] g 二次感染 h 混合感染 i 遅発性感染 j 病原体の排出	
	C 感染・伝播の経路と感染源	a 水平伝播 b 垂直伝播 c 経口感染 d 経気道感染 e 接触感染 f 経皮 (皮膚) 感染 g 経胎盤感染 h 経卵感染 i 経乳感染 j 自家感染 k ベクター l キャリアー m 病原巣 (保有体、レゼルボア)	
	D 寄生体の病原性	a 細菌の病原性 b ウイルスの病原性 c 寄生虫の病原性	
	E 宿主の防御機構	a 非特異的機構 b 特異的機構	
3. 細胞の傷害と死 (退行性病変)	A タンパク質・核酸代謝異常	a 混濁腫脹 b 水腫変性 c 空胞変性 d 硝子滴変性	

大項目	中項目	小項目	備考
		e 硝子変性 f 粘液変性 g アミロイド変性 h フィブリノイド〈類線維素〉変性 i 角質変性 j 尿酸塩沈着	
	B 糖質代謝異常	a 糖原変性 b 糖尿病 c 糖原蓄積症〈糖原病〉 d 遺伝性ムコ多糖症	
	C 脂質代謝異常	a 脂肪変性 b 間質の脂肪症 c 脂質蓄積症	
	D 色素沈着異常	a ヘモグロビン b ヘモジデリン c ポルフィリン d ヘマトイジン e 胆色素〈黄疸〉 f リポフスチン g セロイド h メラニン i 体外性色素	
	E 無機質代謝異常	a 石灰沈着 b 銅 c 鉄 d 鉛	
	F 壊死	a 凝固壊死、乾酪壊死 b 液化〈融解〉壊死 c 壊疽 d 脂肪壊死	
	G アポトーシス		
	H 老化		
	I 封入体形成		
	J 死後変化	a 自己融解 b 死後硬直 c 死斑、死冷、死後凝血	
	K 萎縮	a 単純萎縮と数的萎縮 b 仮性肥大 c 生理的萎縮 d 栄養障害性萎縮 e 神経性萎縮 f 圧迫性萎縮 g 不使用性萎縮 h 内分泌性萎縮 i 貧血性萎縮	

大項目	中項目	小項目	備考
4. 適応と修復	A 細胞増殖のメカニズム	a 細胞周期	
	B 肥大と増生〈過形成〉	a 代償性肥大	
	C 化生		
	D 再生		
5. 循環障害	A 血液の循環障害	a 虚血〈乏血〉	
		b 充血	
		c うっ血	
		d 血行静止	
		e 副行循環	
		f 出血	
		g 止血	
		h 血栓症	
		i 塞栓症	
		j 梗塞	
B リンパ液の循環障害	a 水腫		
	b リンパ流出〈リンパ漏〉		
C ショック	a 原因と分類		
	b 成立機序		
	c 病態		
6. 炎症	A 定義と原因	a 細胞障害	
		b 血管反応	
		c 細胞反応	
		d 修復	
	D 炎症の病態	a 局所性	
		b 全身性	
	E 炎症の種類	a 漿液性炎	
		b 線維索性炎	
		c 出血性炎	
		d 化膿性炎	
		e 壊疽性炎	
		f 増殖性炎	
		g 肉芽腫性炎	
		h 急性炎、亜急性炎、慢性炎	
		a 創傷の種類	
7. 損傷	A 機械的損傷	b 創傷の症状	
		c 創傷の治癒機序	
		d 創傷治癒に影響する因子	
		e 挫傷	
	B 理学的損傷	a 熱傷	
		b 凍傷	
		c 電氣的損傷	
		d 放射線損傷	
	C 化学的損傷		

大項目	中項目	小項目	備考
8. 免疫異常、アレルギー、過敏症	D 病的損傷	a 壊死 b 壊疽 c 潰瘍 d 瘻（管） e びらん f 穿孔	
	A 自己免疫病		
	B 免疫不全症	a 先天性〈原発性〉 b 後天性〈続発性、二次性〉	
	C アレルギー	a I～IV型アレルギー	
9. 腫瘍	D 過敏症	a 気道過敏症 b 腸過敏症	
	A 腫瘍の病因	a 癌関連遺伝子 b 腫瘍発生の外因・内因	
	B 腫瘍免疫		
	C 腫瘍の病理と病態	a 悪性、良性 b 上皮性、非上皮性 c 腫瘍の浸潤・転移	
10. 奇形〈先天異常〉	D 生体に及ぼす影響		
	A 成立機序		
	B 原因	a 内因 b 外因	
	C 型	a 二重体奇形 b 単体奇形 c 組織奇形	

## VI 主要症候

大項目	中項目	小項目	備考
1. 全身性の主要症候	A 意識障害		
	B ショック		
	C 起立不能〈困難〉		
	D 衰弱		
	E チアノーゼ		
	F 黄疸		
	G 体温の異常		
	H 悪液質		
	I 脱水		
	J 食欲の異常	a 減退 b 廃絶 c 異常亢進	
	K 飲水の異常		
	L 消瘦		
	M 肥満		
	N 胸水		
	O 腹水		
	P 浮腫		
	Q 気胸		
	R 気腫		
	S リンパ節腫脹		
	T 発育不良と虚弱		
2. 呼吸器症候	A くしゃみ		
	B 鼻漏		
	C 喘鳴		
	D 発咳		
	E 喀血		
	F 呼吸リズム・運動の異常		
	G 呼吸数の異常		
	H 呼吸音の異常		
3. 循環器症候	A 心雑音		
	B 心悸亢進		
	C 脈拍の異常	a 頸静脈の怒張 b 頸静脈拍動 c 脈拍数の異常 d 不整脈	
	D 血圧の異常	a 低血圧 b 高血圧	
	E 運動不耐性		
4. 消化器症候	A 口臭		
	B 異嗜		
	C 採食・咀嚼・嚥下障害	a 口腔内の異常 b 咽頭の異常 c 食道の異常 d 通過障害	

大項目	中項目	小項目	備考
5. 泌尿器症候	D 反芻の障害	e 誤嚥	
	E 鼓脹〈噯気反射障害〉	a 噯気の過剰形成 b 噯気の排出障害	
	F 流涎		
	G 嘔吐		
	H 吐出〈逆流〉		
	I 吐血		
	J 下血		
	K 便性状の異常	a 便秘 b 粘液便 c 脂肪便 d 白痢〈白色下痢〉 e 緑便 f 軟便 g 泥状便 h 下痢 i 水様下痢 j 鮮血便 k 粘血便 l メレナ m 赤痢	
	L 排便障害〈困難〉		
	M 胃腸運動の異常		
	N 腹痛、疝痛		
	O 腹部膨満		
	A 乏尿、無尿		
	B 多尿		
	C 排尿動作の異常	a 頻尿 b 排尿困難 c 尿閉、無尿 d 排尿失禁 e 排尿痛 f 排尿姿勢の異常 g 尿淋瀝	
	D 尿性状の異常	a タンパク尿 b 糖尿 c ビリルビン尿 d ケトン尿 e アセトン尿 f 血尿 g 血色素尿 h 筋色素尿 i 膿尿 j 乳び尿	

大項目	中項目	小項目	備考
6. 繁殖障害と生殖器症候	A 発情の異常  B 不妊 C 低受胎〈リピートブリーディング〉 D 流産 E 難産〈異常分娩〉 F 悪露の異常 G 子宮修復の異常 H 交尾障害  I 生殖不能	k 細菌尿	
		l 尿沈渣	
		a 無発情	
		b 鈍性発情	
		c 持続性発情	
		d 短発情	
		e 無排卵性発情	
		a 交尾欲の異常	
		b 交尾不能	
7. 運動器症候	A 筋緊張 B 筋萎縮 C 筋硬直 D 疼痛、腫脹 E 姿勢の異常 F 歩行の異常		
8. 神経系症候	A 不随意運動 B 痙攣 C 運動麻痺 D 運動失調 E 知覚障害 F 反射障害 G 自律神経障害 H 沈うつ I 興奮 J 異常運動 K 脱力 L 捻転斜頸	a (完全) 麻痺と不全麻痺	
		9. 感覚器症候	A 眼の異常  B 耳の異常
b 眼の疼痛・腫脹			
c 眼の充血・出血			
d 流涙			
e 眼球の突出と陥凹			
f 眼球の異常運動			
a 聴力障害			
b 耳の痒覚			
c 耳の疼痛			
d 耳漏			

大項目	中項目	小項目	備考
10. 血液・造血器症候	C 嗅覚障害 D 発声異常 A 貧血 B 溶血 C 出血傾向 D 血栓傾向 E 赤血球増加 F 白血球増加 G 白血球減少 H 血小板増加 I 血小板減少		
11. 内分泌・代謝・栄養症候	J 免疫異常、免疫不全 A 低タンパク血症 B 高タンパク血症 C 糖尿、血糖の異常 D 高脂血症 E 肥満症 F 水・電解質の代謝異常 G 酸塩基平衡の異常		
12. 皮膚・体表症候	H 肝性脳症 A 皮疹 B 被毛の異常 C 乳頭腫 D 発汗 E 脂漏 F 痒覚 G 角化の異常	a 不全角化 b 錯角化 c 過角化 d 皮角	
13. 乳房・乳腺症候	H 膿皮症 I 皮温不整 J 点状出血 K 粘膜充血 L 粘膜蒼白 A 乳房腫脹 B 乳腺腫大 C 乳汁分泌異常 D 無乳汁 E 乳漏 F 血乳		

## VII 検査と診断

大項目	中項目	小項目	備考	
1. 検査の基礎	A 意義と目標			
	B 種類と特性			
2. 放射線	C 結果の判定と解釈			
	D 機器・機材の安全な取り扱い法			
	A 放射線の種類と発生			
	B 同位体			
	C 放射線と物質の相互作用			
	D 放射線と放射能の単位	a 照射線量 b 吸収線量 c 線量 d ベクレル e カーマ f 線エネルギー付与		
	E 放射線の線質と測定方法	a 半価層 b 蛍光ガラス線量計 c 光刺激ルミネッセンス線量計〈OSL線量計〉 d 電子式線量計 e 熱蛍光線量計〈TLD〉 f フィルムバッジ g ポケット線量計 h 電離箱 i GMカウンター j シンチレーションカウンター k サーベイメーター l その他の測定器		
	F 放射線の生物作用	a 放射線障害の基礎 b 放射線治療の基礎		
	G 放射線の人体への影響	a 急性障害 b 晩発性障害 c 確率的影響 d 確定的影響 e 胎内被曝 f 外部被曝と内部被曝		
	H 放射線防護の基本的考え方	a 放射線防護体系 b 実効線量 c 等価線量 d 線量限度		
	I 放射線防護の手段	a 管理区域 b 一次線と散乱線 c 防護具 d 被曝管理		
	3. 保定と一般検査	A 保定法	a 牛・馬・豚の起立保定 b 牛・馬・豚の倒臥保定	

大項目	中項目	小項目	備考
4. 臨床病理検査 ①検体検査	B 病歴  C 身体検査	c 小動物の保定法 a 経歴 b 既往病歴 c 現病歴 a 検温 b 視診〈望診〉 c 触診 d 聴診 e 打診 f 探診 g 嗅覚による検査 h 聴覚による検査 i 排泄物の検査	
	D 直腸検査 E 跛行検査  A 検体の採取と保存  B 一般臨床検査  C 血液検査  D 血液生化学検査	a 採血〈種類、部位〉 b 採尿 c 第一胃内容液採取 d 生体穿刺 e 生検、細胞診 f 保存法と保存期間 a 乳汁検査 b 糞便検査 c 尿検査 d 髄液検査 e 穿刺液検査 f 精液検査 g 胃内容液検査 h 分泌液検査 a 細胞学的検査 b 赤血球指数 c 超生体染色 d 血球像 e 血小板 f 出血、凝固 g 赤血球抵抗 h 寄生体 a 血清タンパク質 b 酵素 c 糖質 d 低分子窒素化合物 e 有機酸 f 脂質 g ビタミン	

大項目	中項目	小項目	備考
	E 免疫学的検査	h 無機質 i 色素 j 微量元素 k 電解質 l 酸塩基平衡 m 血清総胆汁酸 a 皮内反応 b 免疫グロブリン c 自己抗体 d 補体 e 細胞性免疫 f 沈降反応 g 凝集反応 h 補体結合反応 i 中和反応 j 赤血球凝集抑制反応 k 溶血反応 l 免疫溶菌反応 m ELISA n 蛍光抗体法 o 標識試験法 p 色素試験 q ウェスタンブロット r 免疫クロマトグラフィー s フローサイトメトリー検査	
	F 微生物学的検査	a 染色法 b 培養法 c 分離・同定法 d 菌数測定法 e ウイルス感染価の測定法 f 薬剤感受性試験	
	G 寄生虫学的検査	a 虫卵・虫体検査法〈糞便、尿、喀痰、肛門周囲〉 b 虫卵培養法〈消化管内線虫類〉 c 子虫游出法〈牛肺虫〉 d 分離・同定法〈原虫類〉 e 標本作製法 f 皮膚搔爬検査法 g 圧平法 h 血液検査法 i 免疫学的検査法 j 寄生程度の判定法〈EPG、OPG、LP G〉	
	H 遺伝子検出による診断	a ハイブリダイゼーション b PCR	

大項目	中項目	小項目	備考
②生体の機能検査	I 病理（組織）学的検査、 生検、細胞診	c 核酸の電気泳動 a 病理解剖 b 死体現象 c 生検 d 標本作製 e 染色 f 組織化学 g 蛍光顕微鏡 h オートラジオグラフィ i 電子顕微鏡 j 免疫組織化学 k 酵素抗体法 l <i>in situ</i> ハイブリダイゼーション m 細胞診	
	A 内分泌検査  B 肝・胆道機能検査  C 膵・腸機能検査  D 腎機能検査  E 心機能検査  F 神経系・筋の検査	a 視床下部 b 下垂体 c 甲状腺 d 上皮小体 e 副腎皮質 f 副腎髄質 g 膵島、消化管 h 性腺 a 負荷試験 b 異物排泄試験 a 内分泌機能 b 外分泌機能 a 血行動態 b 糸球体・尿細管機能 a 血圧 b 心電図 c 心音図 d X線検査 e 超音波検査 a 脳波〈脳電図、EEG〉 b 筋電図 c 網膜電位図検査	
5. 妊娠診断	A ノンリターン法 B 直腸検査法 C 膣検査法 D 子宮頸管粘液検査法  E ホルモン検出診断法 F 超音波検査法 G 腹部触診法 H X線診断法	a 縮毛状検査 b スタンプスメア検査	

大項目	中項目	小項目	備考
6. 繁殖障害の診断	A 乗駕試験 B 射精試験 C 精液・精子の検査 D 膣及び膣粘液検査 E 子宮頸管粘液の性状検査 F 直腸検査 G 超音波検査 H 子宮洗浄 I 子宮内膜バイオプシー J 卵管疎通性検査 K 性ホルモン検査 L 染色体検査		
7. 画像診断	A X線診断  B 超音波診断  C 内視鏡検査 D コンピューター断層撮影〈CT〉検査 E 放射性同位元素を用いた画像診断 F 磁気共鳴画像〈MRI〉検査	a X線像成立の基本 b 診療用X線発生装置 c X線撮影の基本的器材 d デジタルラジオグラフィ〈DR〉 e X線写真に影響する因子 f X線撮影法【保定法、保定具を含む。】 g X線解剖 h X線読影技術【所見記述法を含む。】 i 造影剤と造影検査 j X線透視法 k X線特殊診断法〈高圧撮影法〉 a 超音波検査の原理 b 超音波診断装置と周辺機器 c 超音波検査技術 d 超音波読影法 e 超音波ドプラ法 f 超音波生検法	

## VIII 治療と処置

大項目	中項目	小項目	備考
1. 治療の基礎	A 治療の意義と目的	a 疾病の治療と自然治癒	
	B 治療法の概念	a 原因的療法 b 対症的療法	
2. 治療の準備	A 保定		
	B 消毒		
3. 治療の基本手技	A 薬物の投与	a 簡易経口投与 b カテーテル投与 c 第一胃内直接投与 d 注腸 e 吸入 f 子宮内注入	
	B 注射法	a 皮下注射 b 筋肉内注射 c 静脈内注射 d 皮内注射 e 点滴	
	C 穿刺	a 胸腔穿刺 b 心膜穿刺 c 第一胃穿刺 d 腹腔穿刺 e 膀胱穿刺	
	D 瀉血		
	E 洗浄	a 体表洗浄 b 鼻腔洞腔洗浄 c 口腔洗浄 d 胃内洗浄 e 尿道・膀胱洗浄 f 洗眼、点眼 g 子宮洗浄	
	F 浣腸		
	G 塗擦、塗布		
	H 罨法		
4. 繁殖技術	A 発情・排卵の同期化		
	B 人工授精	a 人工授精の利害と損失 b 精液の採取 c 精液・精子の検査 d 精液の希釈と保存 e 精液の注入	
	C 胚（受精卵）の移植	a 胚移植の利害と損失 b 過剰排卵誘起 c 胚の採取・処理 d 胚の保存 e 胚の移植	
	D 体外受精	a 卵子の採取と体外成熟 b 体外受精	

大項目	中項目	小項目	備考
	E 避妊	c 受精卵〈胚〉の体外培養 a 雄性避妊 b 雌性避妊	
	F 分娩調整	a 分娩誘起 b 分娩遅延処置	
	G 人工流産		
	H その他の技術	a 性支配〈X精子とY精子の分離、 胚の性別判別〉 b キメラ c 遺伝子組換え動物 d クローン動物	
5. 救急処置	A 心肺蘇生法	a 気道確保 b 人工呼吸 c 心停止時の処置と除細動 d 静脈確保 e 薬物療法	
6. 損傷の治療と処置	A 創傷の治療と処置	a 創及び周囲の清浄化 b 止血 c 辺縁切除 d 縫合 e 包帯 f 排液 g 移植	
		B 挫傷の治療と処置	
		C 理学的損傷の治療と処置	
		D 化学的損傷の治療と処置	
		E 病的損傷の治療と処置	
7. 炎症の治療と処置	A 全身療法 B 局所療法		
8. 腫瘍の治療	A 手術療法 B 化学療法 C 放射線療法 D その他の療法	a 免疫療法 b 冷凍〈凍結〉外科療法	
	A 投与量 B 特異体質 C 耐性 D 過敏性 E 蓄積作用 F 協力作用 G 拮抗作用 H 配合禁忌		
	A 静菌作用と殺菌作用 B 抗菌スペクトル C 薬剤感受性		
9. 薬物療法の基本			
10. 化学療法の基本			

大項目	中項目	小項目	備考
11. 栄養管理	D 多剤耐性と交差耐性		
	E 菌交代現象		
12. 輸液	F 有害反応		
	A 栄養管理の基礎		
13. 輸血	B 栄養の補給法	a 経口栄養 b 経管栄養 c 経静脈栄養〈中心静脈栄養、末梢静脈栄養〉	
	A 輸液の目的		
14. 血液浄化	B 輸液の一般的注意		
	C 輸液の種類と投与方法		
15. 放射線治療	D 輸液の副作用		
	A 輸血の一般的注意	a 血液の適合性 b 交差〈又〉適合試験 c 血液型	
16. 麻酔	B 血液の採取と保存	a 供血動物の選択 b 新鮮血と保存血 c 全血輸血と成分輸血	
	C 輸血の適応症と禁忌		
17. 血液浄化	D 輸血法		
	E 輸血の副作用		
18. 放射線治療	A 血液透析		
	B 腹膜透析		
19. 麻酔	A 放射線治療装置		
	B 放射線の治療効果に寄与する要因	a 線質と生物学的効果比〈LET、RBE〉 b 酸素効果 c 正常組織耐容線量 d 分割照射と回復、再酸素化 e 線量分布 f 他療法との併用効果	
20. 麻酔	C 主要適応症	a 腫瘍の放射線感受性	
	D 放射線治療の副障害とその対策	a 全身的影響 b 局所的影響〈早期障害、晩期障害〉	
21. 麻酔	A 術前管理	a 術前状態の評価 b 麻酔法の選択 c 麻酔前投薬 d 鎮静薬・鎮痛薬の併用	
	B 局所麻酔	a 局所麻酔薬の種類と特性 b 局所麻酔法の種類と適用〈脊椎麻酔、硬膜外麻酔、伝達麻酔、静脈内局所麻酔、浸潤麻酔、表面麻酔、周囲麻酔〉	
22. 麻酔	C 全身麻酔の理論と機序	a 麻酔の段階と徴候 b 麻酔深度	
	D 注射麻酔	a バルビツレイト麻酔	

大項目	中項目	小項目	備考			
17. 外科手術の基本	E 筋弛緩薬 F 吸入麻酔	b ケタミン麻酔 c NLA法、NLA変法				
		a 麻酔薬の種類と特性 b 吸収と排泄 c 麻酔の器具				
	G 術中管理	a 麻酔深度の監視と管理 b 呼吸器系の監視と管理 c 呼吸器系合併症 d 循環器系の監視と管理 e 循環器系合併症 f 体温の監視と管理				
		H 術後管理と合併症		a 麻酔・手術からの回復 b 呼吸器系 c 循環器系 d 泌尿器系 e 代謝系 f 体温の異常		
				I 疼痛管理	a 疼痛の機序と疼痛管理の理論 b 疼痛の評価 c 術後疼痛及び急性痛の管理 d 慢性痛の管理 e 癌性痛の管理	
					A 準備と消毒	a 無菌手術の概念と重要性 b 手術施設の構造と管理 c 手術器材の準備と消毒 d 手術者の準備と消毒 e 術野の準備と消毒
	B 手術器具・機材					a 一般手術器具・機材 b 特殊手術器具・機材
						C 基本的手術手技
	18. 産科処置の基本					
		19. その他の治療法				
A 電気療法 B レーザー療法 C 超音波療法						

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
20. 動物の安楽死法	D 水治療法 E 焼烙法 F 針灸療法 G マッサージ A 動物の安楽死法		

# 衛生学に関する事項

獣医師として身につけておくことが必要な公衆衛生及び飼育動物の保健衛生に関する知識・技能を体系的に網羅する。

区 分	主な関連科目
I 公衆衛生と獣医衛生 -----	獣医微生物学、獣医寄生虫（病）学、 獣医衛生学、獣医伝染病学、 獣医公衆衛生学
II 食品衛生 -----	獣医寄生虫（病）学、獣医公衆衛生学、 魚病学
III 人獣共通感染症 -----	獣医寄生虫（病）学、獣医衛生学、 獣医公衆衛生学、実験動物学、魚病学
IV 動物の飼育・衛生管理 -----	獣医衛生学、獣医伝染病学、 実験動物学
V 魚類の飼育・衛生管理 -----	魚病学
VI 環境衛生 -----	獣医衛生学、獣医公衆衛生学、毒性学

# I 公衆衛生と獣医衛生

大項目	中項目	小項目	備考
1. 公衆衛生の考え方と概要	A 定義と目的		
	B 予防活動と公衆衛生活動		
	C 国民衛生の動向	a 国民衛生の動向を示す指標〈出生率、死亡率、致死率、疾病統計、死因統計〉 b 生命表〈生命関数〉	
2. 獣医衛生の考え方と概要	A 定義と目的		
3. 疫学の方法論	A 疫学概念	a 疫学の定義と目的	
		a 母集団と標本	
	B 標本の抽出法	b 標本の抽出法	
		a 罹患率	
		b 累積罹患率	
		c 有病率	
		d 死亡率	
		e 致命率〈致死率〉	
		f 相対危険	
		g 寄与危険	
		h オッズ比	
	D 記述疫学		
	E 分析疫学	a 症例対照研究	
		b コホート研究	
	F その他の疫学	a 介入研究〈実験疫学〉	
b 理論疫学			
c 血清疫学			
d 分子疫学			
G スクリーニングテストとその評価	a 感度、特異度		
	a 偶然誤差		
H 誤差	b 系統誤差〈バイアス、交絡〉		
	a 宿主要因		
4. 感染症の疫学	A 感染症の発生要因	b 病因要因	
		c 環境要因	
		a 生物学的現象〈特性〉	
	B 流行の様相	b 時間的現象〈特性〉	
		c 地理的現象〈特性〉	
		d 社会的現象〈特性〉	
		a 流行の定義	
	C 流行の機序	b 流行の種類	
		c 流行要因	
5. 感染症の予防と防疫	A 主な感染症の発生・流行状況	a 家畜伝染病予防法に基づく監視伝染病〈家畜伝染病、届出伝染病〉	
		b 海外悪性伝染病	
		c 家畜伝染病予防法第36条の2に規定する病原体	

大項目	中項目	小項目	備考
<p>6. バイオハザードと病原体の危険度分類</p> <p>7. 非感染症の疫学</p> <p>8. 疾病対策の経済的評価</p> <p>9. リスクアナリシス</p>	<p>B 予防・防疫対策</p> <p>A 病原体の危険度分類</p> <p>B バイオハザード対策</p> <p>A 非感染症の発生要因</p> <p>B 非感染症の予防</p> <p>C 主要な非感染症の疫学</p> <p>A 部分査定法</p> <p>B コストベネフィット分析</p> <p>C 決定分析</p> <p>A ハザードの特定</p> <p>B リスクアセスメント</p> <p>C リスクコミュニケーション</p> <p>D リスクマネジメント</p>	<p>d 感染症法〔動物由来感染症〈人獣共通感染症〉〕</p> <p>e 狂犬病予防法</p> <p>a 感染源・感染経路対策〈消毒、検疫、隔離、殺処分、焼却、埋却、摘発淘汰、移動禁止、衛生動物駆除〉</p> <p>b 特定家畜伝染病防疫指針</p> <p>c スクリーニングテスト</p> <p>d 予防接種</p> <p>e サーベイランス</p> <p>f モニタリング</p> <p>g 撲滅計画</p>	

## II 食品衛生

大項目	中項目	小項目	備考
1. 食品の安全性	A 食品の微生物	a 食品の細菌叢 b 食品中での微生物の増殖 c 食品の微生物汚染 d 汚染指標菌 e 低温発育菌	
	B 食品の変質、腐敗	a 定義と機序 b 腐敗検査〔揮発性塩基窒素〈VBN〉〕 c 腐敗防止	
	C 食品添加物と有害物質	a 食物連鎖と生物濃縮 b 食品添加物 c 残留医薬品 d 残留農薬 e ポジティブリスト制度 f マイコトキシン g 重金属 h その他の有害物質〈有害化学物質、内分泌攪乱物質〉	
	D 食品の機能	a 保健機能食品〈特定保健用食品、栄養機能食品〉	
	E 食品媒介感染症	a 経口伝染病〔コレラ、腸チフス・パラチフス、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、急性灰白髄炎〈ポリオ〉、流行性肝炎〈A型肝炎〉、伝染性下痢症〕 b 食品媒介性感染症【経口伝染病、食中毒は除く。】	
	F 食中毒	a 定義と分類 b 疫学 c 細菌性食中毒〔腸炎ビブリオ食中毒、サルモネラ食中毒、病原大腸菌食中毒〈EPEC、EIEC、ETEC、EAEC、EHEC〉、ブドウ球菌食中毒、ボツリヌス中毒、ウェルシュ菌食中毒、セレウス菌食中毒、エルシニア・エンテロコリチカ食中毒、カンピロバクター・ジェジュニ/コリ食中毒、Non-01ビブリオ食中毒、エロモナス食中毒、プレシオモナス食中毒、リステリア症〕 d ウイルス性食中毒〈ノロウイルス、ロタウイルス、腸管アデノウイルス〉 e 自然毒食中毒〈植物性、動物性〉 f 化学性食中毒 g アレルギー様食中毒	

大項目	中項目	小項目	備考	
2. 乳・乳製品の衛生	G 食品の衛生管理	a 生産段階 b 製造・加工段階 c 流通・保存・販売段階 (GMP、HACCP) d 消費段階		
	A 乳・乳製品の成分と性状	a 生乳の成分と性状 b 異常乳		
	B 乳・乳製品の汚染と危害	a 微生物汚染 b 化学物質による汚染 c 人の健康障害		
	C 処理と衛生管理	a 搾乳時の衛生 b 処理工程 (受乳、殺菌、容器詰) c 生乳殺菌の目的と原理 d 生乳の殺菌方法 e 乳・乳製品の微生物管理		
	D 成分規格、製造・保存の基準			
3. 食肉の衛生	E 乳・乳製品の検査法	a 比重 b 乳脂肪分 c 無脂乳固形分 d 酸度 e 細菌数 (総細菌数、生菌数) f 大腸菌群数 g 残留抗生物質		
	A と畜衛生	a と畜場の定義・種類		
	B と畜検査	a と殺・解体処理行程の流れ b 生体検査 c 解体前検査 d 解体時検査 e 解体後検査 f 廃棄 g 精密検査 (試験室内検査) h 検査対象疾病		
	C と畜場外と殺	a 切迫と殺 b 自家用と殺		
	D 食肉の加工と衛生	a 枝肉の微生物汚染 b 異常肉 c 食肉製品の衛生 d 残留抗菌性物質、残留医薬品 e 人の健康障害		
	E 牛海綿状脳症対策			
	4. 食鳥肉・卵の衛生	A 食鳥肉の衛生	a 食鳥検査制度 b 食鳥処理工程 c 残留抗菌性物質、残留医薬品 d 人の健康障害	
		B 食卵の衛生	a 卵の微生物汚染防止機構	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
5. 水産食品の衛生	A 魚介類の衛生	<ul style="list-style-type: none"> <li>b 卵の品質と鮮度検査</li> <li>c 卵の保存法</li> <li>d 卵の処理工程</li> <li>e 異常卵</li> <li>f 人の健康障害</li> <li>a 微生物による汚染</li> <li>b 魚介類の加工と衛生</li> <li>c 魚介類の試験法</li> <li>d 人の健康障害</li> </ul>	

### Ⅲ 人獣共通感染症

大項目	中項目	小項目	備考
1. 人獣共通感染症の定義と概要	A 定義、分類、防疫対策 B 新興・再興（人獣共通）感染症		
2. 感染症法における人獣共通感染症			
①ウイルス性感染症	A エボラ出血熱 B クリミア・コンゴ出血熱 C 南米出血熱 D マールブルグ病 E ラッサ熱 F 重症急性呼吸器症候群〈SARS〉 G 鳥インフルエンザ H E型肝炎 I 黄熱 J 狂犬病 K ウエストナイル熱 L オムスク出血熱 M キャサヌル森林病 N サル痘 O 腎症候性出血熱 P 西部馬脳炎 Q ダニ媒介脳炎 R デング熱 S 東部馬脳炎 T ニパウイルス感染症 U 日本脳炎 V ハンタウイルス肺症候群 W Bウイルス病 X ベネズエラ馬脳炎 Y ヘンドラウイルス感染症 Z リッサウイルス感染症 AA リフトバレー熱	【病原体、疫学、症状、診断、予防】	
②リケッチア・クラミジア性感染症	A オウム病 B ツツガムシ病 C 日本紅斑熱 D 発疹チフス E ロッキー山紅斑熱		
③細菌性感染症	A ペスト B 結核 C 細菌性赤痢 D 腸管出血性大腸菌感染症 E Q熱 F 炭疽 G ボツリヌス症		

大項目	中項目	小項目	備考	
④真菌性感染症 ⑤寄生虫性感染症	H 野兔病			
	I 回帰熱			
	J 鼻疽			
	K ブルセラ症			
	L ライム病			
	M 類鼻疽			
	N レプトスピラ症			
	O 破傷風			
	A コクシジオオイデス症			
	A エキノコックス症			
	B クリプトスポリジウム症			
	C アメーバ赤痢			
	D ジアルジア症			
	3. その他の人獣共通感染症			
	①ウイルス性感染症	A ニューカッスル病 B リンパ球性脈絡髄膜炎 C 伝染性膿疱性皮膚炎 D 牛丘疹性口炎 E 水胞性口炎		
②リケッチア・クラミジア性感染症	A 発疹熱			
③細菌性感染症	A 非定型抗酸菌症 B パスツレラ症 C 豚丹毒 D リステリア症 E 非チフス性サルモネラ症 F エルシニア症 G カンピロバクター症 H 鼠咬症 I 仮性結核 J 猫ひっかき病 K 悪性水腫			
④真菌性感染症	A クリプトコックス症 B 皮膚真菌症〈皮膚糸状菌症〉 C ヒストプラズマ症			
⑤原虫性感染症	A トキソプラズマ症			
⑥蠕虫性感染症	A 肺吸虫症 B 肝吸虫症 C 横川吸虫症 D 日本海裂頭条虫症 E マンソン裂頭条虫症 F 有鉤条虫症 G 無鉤条虫症			

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
⑦節足動物寄生症	H 回虫類の幼虫移行症 I アニサキス症 J 広東住血線虫症 K 糞線虫症 L 顎口虫症 M 犬糸状虫症 N 旋毛虫症〈トリヒナ症〉 A 疥癬		

#### IV 動物の飼育・衛生管理

大項目	中項目	小項目	備考
1. 家畜の管理衛生	A 家畜の管理形態	a 家畜飼養形態の変遷〔個体管理、群管理〈ハードヘルス〉〕	
		b 畜舎管理と放牧管理	
	B 一般環境要因	a 空気	
		b 気象要因	
		c 家畜の体温と環境への適応	
		d 気候	
		e 水	
		f 土壌	
		g 光	
	C 生産衛生	a 畜舎環境と衛生対策	
		b 乳牛の管理衛生〈新生子牛の管理衛生、育成牛の管理衛生、泌乳牛の管理衛生、乳生産管理衛生、搾乳衛生、疾病制御〉	
		c 肉牛の管理衛生〈肉牛の繁殖、子牛の衛生管理、疾病制御〉	
		d 豚の管理衛生〈一般衛生管理、疾病制御、SPF豚の管理衛生〉	
		e 鶏の管理衛生〈孵化場の管理衛生、初生雛・幼雛の管理衛生、ブロイラーの管理衛生、採卵鶏の管理衛生、疾病制御〉	
	D 放牧衛生	a 日本における放牧の現状と特質	
		b 放牧環境要因〈気象的要因、地勢的要因、生物的要因〉	
		c 放牧地の管理〈草地の管理、衛生動物と有毒植物対策、放牧施設の管理〉	
		d 放牧家畜の管理〈放牧形態の種類、放牧家畜の衛生管理〉	
		e 放牧病	
E 輸送衛生	a 牛・馬・豚の輸送〔輸送ストレス、輸送衛生管理、輸送熱、PSE肉〈むれ肉〉〕		
	b 輸送性疾患の病原体と免疫機能要因		
F 牛の遺伝性疾患	a 牛白血球粘着不全症		
	b 牛複合脊椎形成不全症		
	c クローディン16欠損症		
	d バンド3欠損症		
	e 第XⅢ因子欠乏症		
	f チェディアック・東症候群		
	g モリブデン補酵素欠損症		
G 豚の遺伝性疾患			

大項目	中項目	小項目	備考
2. 家畜の衛生的生産	H 人への影響	a 人獣共通感染症の予防	
	A 安全な畜産物	a 人獣共通感染症の予防 b 食中毒菌の保菌防止 c HACCP方式 d 飼養衛生管理基準	
3. 家畜の飼養衛生	B 畜産廃棄物	a 家畜ふん尿の処理 b 畜産廃棄物の処理と資源化	
	A 飼養	a 飼養標準	
	B 栄養単位	a 可消化養分総量 (TDN)	
		b 可消化エネルギー (DE)	
		c 代謝エネルギー (ME)	
		d 正味エネルギー (NE)	
		e アイディアルプロテイン	
	C 飼料の分類	a 粗飼料 b 濃厚飼料 c 混合飼料 (TMR) d サイレージ e 動物質飼料	
	D 飼料の給与法		
	E 飼料の鑑定		
F 飼料の変質			
G 飼料の安全性の確保			
4. 生産獣医療システム	A 生産獣医療の概念		
	B 栄養管理	a 代謝プロファイルテスト (MPT)	
		b 代謝異常	
	C 繁殖管理		
	D 搾乳管理		
	E 護蹄管理		
	F 育成管理		
G 予防衛生管理	a 飼養管理 b 疾病管理		
5. 小動物 (伴侶動物) の衛生管理	A 健康管理		
	B 栄養管理		
	C 人への影響	a 人獣共通感染症の予防	
6. 実験動物の飼育と衛生管理	A 主な実験動物とその特性 【分類学上の位置、主な品種・系統、形態的特性、機能的特性、実験動物としての特徴を網羅する。】	a マウス	
		b ラット	
		c シリアンハムスター	
		d チャイニーズハムスター	
		e スナネズミ	
		f モルモット	
		g ウサギ	
		h スンクス	
		i イヌ	
		j ネコ	
		k ブタ	

大項目	中項目	小項目	備考
		l ヒツジ m ヤギ n アカゲザル o カニクイザル p マーモセット q リスザル r ニワトリ s ウズラ t アフリカツメガエル u メダカ v ゼブラフィッシュ	
	B 実験動物の生産供給	a 育種の基礎 b 各種系統の定義、遺伝的統御〈交配〉の様式、維持・生産 c 遺伝モニタリング d 微生物モニタリング e 発生工学的手法による開発〔キメラ動物、トランスジェニック動物、ノックアウト動物、クローン動物、胚性幹細胞〈ES細胞〉〕 f 繁殖生理 g 繁殖技術 h 輸送	
	C 実験動物の飼育管理	a 飼育の基礎 b 環境制御	
	D 人の安全確保	a 人獣共通感染症の予防 b バイオハザードとケミカルハザード c 動物実験と環境保全	
	E 実験動物の感染症	a ティザー病 b ネズミコリネ菌病 c 溶血レンサ球菌病 d 肺炎球菌病 e ブドウ球菌病 f 緑膿菌病 g マウス腸粘膜肥厚症 h ウサギ大腸菌病 i サルモネラ病 j カーバチルス病 k 気管支敗血症菌病 l パスツレラ症 m ヘリコバクター病 n 細菌性赤痢 o 結核 p 赤肢病	

大項目	中項目	小項目	備考
7. ミツバチの衛生管理	A ミツバチの感染症	q センダイウイルス病 r マウス肝炎 s マウス肺炎 t マウス脳脊髄炎 u 乳酸脱水素酵素上昇ウイルス病 v エクトロメリア w マウスロタウイルス病 x ウサギロタウイルス病 y リンパ球性脈絡髄膜炎 z マウス白血病 aa マウス乳癌 ab 唾液腺涙腺炎 ac Bウイルス病 ad サイトメガロウイルス病 ae ウサギ粘液腫 af ショーブ乳頭腫 ag エボラ出血熱 ah マールブルグ病 ai ハンタウイルス感染症 aj サル痘〈モンキーポックス〉 ak マイコプラズマ病 al 皮膚糸状菌症 am ウサギコクシジウム症 an エンセファリトゾーン〈エンケファリトゾーン〉症 ao 腸トリコモナス症 ap ジアルジア症 aq アメーバ赤痢 ar ニューモシスティス症 as 小形条虫症 at 蟻虫症 au サル腸結節虫症 av サル糞線虫症 aw ウサギの耳疥癬 a 腐蛆病 b チョーク病 c ノゼマ病 d バロア病 e アカリンダニ症	(法)

## V 魚類の飼育・衛生管理

大項目	中項目	小項目	備考			
1. 魚類の飼育と衛生管理	A 魚類の分類	a 有用魚類				
	B 魚類の正常な構造と機能	a 皮膚				
		b 骨格				
		c 筋肉				
		d 呼吸				
		e 循環、造血				
		f 消化、吸収				
		g 神経、感覚				
		h 内分泌、生殖				
		i 浸透圧調節				
C 魚類の飼育	a 種苗〈人工種苗、天然種苗〉					
	b 栄養と飼料・餌料					
	c 水質					
D 魚類の生体防御	a 非特異的生体防御					
	b 特異的生体防御					
E 水産用医薬品	a ワクチン					
	b 抗菌薬					
2. 魚類の疾病	A ウイルス病	①RNAウイルス	a ウイルス性出血性敗血症〈VHS〉			
			b 伝染性造血器壊死症〈IHN〉			
			c 伝染性脾臓壊死症〈IPN〉			
			d ウイルス性腹水症			
			e ヒラメラブドウイルス病			
			f ウイルス性神経壊死症〈VNN〉			
			g コイ春ウイルス血症〈SVC〉			
			h 赤血球封入体症候群〈EIBS〉			
			i ウイルス性旋回病〈VWD〉			
			②DNAウイルス	a ヘルペスウイルス病〈OMVD〉		
		b コイヘルペスウイルス病〈KHVD〉				
		c リンホシスチス症				
		d コイの上皮腫				
		e マダイイリドウイルス病				
		f クルマエビ急性ウイルス血症				
		g バキュロウイルス性中腸腺壊死症				
		B 細菌病		①グラム陰性桿菌	a ビブリオ病	
					b 運動性エロモナス症	
					c せっそう病	
			d 穴あき病			
e 赤点病						
f エドワジエラ症						
g レッドマウス病						
h 細菌性鰓病〈BGD〉						
i 類結節症						

大項目	中項目	小項目	備考
	②グラム陽性桿菌	j アユのシュードモナス病（細菌性出血性腹水症） a 細菌性腎臓病（BKD） b ミコバクテリア症（抗酸菌症）	人魚共通感染症
	③グラム陽性球菌	c ノカルジア症 a 連鎖球菌症	
	④滑走細菌	a カラムナリス病 b 海産魚の滑走細菌症 c 冷水病	
	C 真菌病		
	①鞭毛菌類	a 水カビ病 b 真菌性肉芽腫症 c サケ科魚類稚魚の内臓真菌症	
	②接合菌類	a イクチオホヌス症	
	③不完全菌類	a オクロコニス症 b 胃鼓脹症	
	D 原虫病		
	①植物性鞭毛虫	a アミルウーヅニウム症	
	②動物性鞭毛虫	a イクチオボド症	
	③繊毛虫	a 白点病《淡水魚、海水魚》 b キロドネラ症 c トリコジナ症 d エピスチリス症	
	④微胞子虫	a ヘテロスポリス症（ウナギのベコ病） b グルゲア症 c 微胞子虫症（ブリのベコ病）	
	E 粘液胞子虫病	a 旋回病 b 筋肉クドア症 c 粘液胞子虫性側湾症 d コイ稚魚の鰓ミクソボルス症 e 粘液胞子虫性やせ病	
	F 大型寄生虫病		
	①単生虫	a ギロダクチルス症 b ダクチロギルス症 c シュードダクチロギルス症 d ベネデニア症 e ヘテラキシネ症 f ビバギナ症 g ヘテロボツリウム症	
	②吸虫	a パラデオンタシリックス症（血管内吸虫症）	
	③線虫	a 筋肉線虫（フィロメトロイデス）症	

大項目	中項目	小項目	備考
	④鉤頭虫 ⑤甲殻類  G 飼料性疾病  H 環境性疾病  I 腫瘍	b 生殖腺線虫症 a 頸長鉤頭虫〈ロンギコラム〉症 a イカリムシ症 b カリグス症 c アルグルス〈チョウ・チョウモドキ〉症 a ビタミン欠乏 b 必須アミノ酸欠乏 c 必須脂肪酸欠乏 d 無機塩類 e 変敗飼料 f 飼料中の発癌性物質による腫瘍 a 温度 b 溶存ガス量 c 溶存窒素化合物 d 農薬中毒	

## VI 環境衛生

大項目	中項目	小項目	備考	
1. 環境衛生と環境汚染 【環境毒性学・エコトキシコロジーの概念を含む。】	A 生態系の基本概念	a エコシステム b エコロジカルバランス c 食物連鎖 d 生物濃縮		
	B 環境衛生の定義と概念			
	C 環境基準			
	D 環境影響評価〈環境アセスメント〉			
	E 地球環境問題	a 地球温暖化 b オゾン層破壊 c 酸性雨 d 熱帯雨林の減少 e 海洋汚染 f 生物多様性の減少 g 砂漠化 h 有害廃棄物の越境移動		
	F 化学物質の環境リスク対策	a 化学物質対策 b 野生動物への影響、生物モニタリング		
	2. 大気の衛生	A 日光〈太陽光線〉 B 大気の組成と健康影響 C 温度環境 D 異常気圧と健康影響		
	3. 上水	A 水と人の健康 B 浄水法 C 上水の衛生管理 D 水質検査法	a 水系感染症 b 有害化学物質による健康障害 a 浄水の原理 b 緩速濾過法 c 急速濾過法 a 水質基準 b 水質検査法 a 大腸菌、大腸菌群 b 一般細菌 c 残留塩素 d 有害物質	
	4. 下水・汚水	A 下水道 B 処理法 C 水質検査法	a 活性汚泥法 b 酸化池法 c 生物膜法 d 嫌気性処理法 a pH b 生物化学的酸素要求量〈BOD〉 c 化学的酸素要求量〈COD〉 d 浮遊物質〈SS〉 e 溶存酸素〈DO〉 f 窒素含有量	

大項目	中項目	小項目	備考
5. 廃棄物と環境	D 排水基準	g リン含有量 h 一般細菌数 i 大腸菌群数 a 下水道法施行令に基づく排水基準 b 水質汚濁防止法に基づく排水基準	
	A 一般廃棄物	a 生活系ごみ b 生活廃水	
	B 産業廃棄物		
	C 特別管理一般廃棄物と特別管理産業廃棄物	a 医療廃棄物	
6. 地域環境問題〈公害〉	D 畜産廃棄物	a 家畜の排泄物量 b 家畜の排泄物処理 c 畜産廃棄物の利用〈堆肥化、飼料化、エネルギー利用〉 d レンダリング	
	A 公害発生のメカニズムと対策		
	B 大気汚染	a 農薬、重金属、有害化学物質、有機溶媒	
	C 水質汚濁	a 農薬、廃棄物、重金属、有害化学物質、有機溶媒	
	D 土壌汚染	a 農薬、廃棄物、重金属、有害化学物質、有機溶媒	
	E 悪臭	a 特定悪臭物質	
7. その他の環境問題	F その他の公害	a 騒音、振動、地盤沈下	
	A 放射能汚染		
8. 衛生動物	B 内分泌攪乱物質		
	A 衛生動物の分類と生態		
	B 衛生動物による害		
	C 衛生動物の防除		

# 獣医学の臨床的事項

飼育動物の診療といった獣医師としての職能を獣医療現場で発揮する際に、求められる総合的かつ実践的な知識・技能を体系的に網羅する。

区 分	主な関連科目
I 感染症	獣医薬理学、獣医病理学、 獣医微生物学、獣医寄生虫（病）学、 獣医内科学、獣医外科学、 獣医臨床繁殖学、獣医衛生学、 獣医伝染病学、獣医放射線学
II 中毒	
III 呼吸器系の疾患	
IV 循環器系の疾患	
V 消化器系の疾患	
VI 泌尿器系の疾患	
VII 繁殖障害と生殖器系の疾患	
VIII 運動器系の疾患	
IX 神経系の疾患	
X 感覚器系の疾患	
X I 血液・免疫系の疾患	
X II 内分泌・代謝系の疾患	
X III 皮膚の疾患	
X IV 乳房・乳腺の疾患	
X V 新生子の疾患	

# I 感染症

大項目	中項目	小項目	備考
1. ウイルス性感染症	A 口蹄疫		(法)
	B 牛疫		(法)
	C リフトバレー熱		(法)
	D 水胞性口炎		(法)
	E ブルータング		(届)
	F アカバネ病		(届)
	G 悪性カタル熱		(届)
	H チュウザン病〈カスバウ ウイルス病〉		(届)
	I ランピースキン病		(届)
	J 牛ウイルス性下痢・粘膜 病		(届)
	K 牛伝染性鼻気管炎〈牛ヘ ルペスウイルス I 型感染 症〉		(届)
	L 牛白血病		(届)
	M アイノウイルス感染症		(届)
	N イバラキ病		(届)
	O 牛丘疹性口炎		(届)
	P 牛流行熱		(届)
	Q アデノウイルス病		
	R 牛痘		
	S 偽牛痘		
	T 牛RSウイルス病		
	U 牛パラインフルエンザ		
	V 牛コロナウイルス病		
	W ロタウイルス病		
	X マエディ・ビスナ		(届)
	Y 山羊関節炎・脳脊髄炎		(届)
	Z 小反芻獣疫		(届)
	AA 伝染性膿疱性皮膚炎		(届)
	AB 羊痘		(届)
	AC 山羊痘		(届)
	AD 馬伝染性貧血		(法)
AE アフリカ馬疫		(法)	
AF 流行性脳炎〈日本脳炎、 東部・西部馬脳炎、ベネズ エラ馬脳炎、ウエストナイ ルウイルス感染症〉		(法)	
AG 馬インフルエンザ		(届)	
AH 馬ウイルス性動脈炎		(届)	
AI 馬鼻肺炎		(届)	
AJ 馬モルビリウイルス肺炎		(届)	
AK ボルナ病			
AL 馬のゲタウイルス感染症			

大項目	中項目	小項目	備考
	AM 豚コレラ		(法)
	AN アフリカ豚コレラ		(法)
	AO 豚水泡病		(法)
	AP オーエスキー病		(届)
	AQ 伝染性胃腸炎		(届)
	AR 豚エンテロウイルス性脳 脊髄炎		(届)
	AS 豚繁殖・呼吸障害症候群 〈PRRS〉		(届)
	AT 豚水疱疹		(届)
	AU 豚流行性下痢		(届)
	AV ニパウイルス感染症		(届)
	AW 豚の離乳後多臓器性発育 不良症候群		
	AX 豚インフルエンザ		
	AY 豚パルボウイルス病		
	AZ 高病原性鳥インフルエン ザ		(法)
	BA ニューカッスル病		(法)
	BB 鳥インフルエンザ		(届)
	BC 鶏痘		(届)
	BD マレック病		(届)
	BE 伝染性気管支炎		(届)
	BF 伝染性喉頭気管炎		(届)
	BG 伝染性ファブリキウス囊 病		(届)
	BH 鶏白血病		(届)
	BI 鶏脳脊髄炎		
	BJ 封入体肝炎		
	BK 産卵低下症候群		
	BL 鶏貧血ウイルス病		
	BM ウイルス性腱鞘炎・関節 炎		
	BN メタニューモウイルス感 染症		
	BO 狂犬病		(法)
	BP 犬ジステンパー		
	BQ 犬パルボウイルス病		
	BR 犬ヘルペスウイルス感染 症		
	BS 犬パラインフルエンザ		
	BT 犬伝染性喉頭気管炎		
	BU 犬コロナウイルス病		
	BV 犬伝染性肝炎		
	BW 猫白血病		

大項目	中項目	小項目	備考
2. リケッチア・クラミジア感染症	BX 猫免疫不全ウイルス感染症		
	BY 猫汎白血球減少症		
	BZ 猫ウイルス性鼻気管炎		
	CA 猫カリシウイルス病		
	CB 猫伝染性腹膜炎		
	CC ミンクアリュウシヤン病		
	A アナプラズマ病		(法)
	B 流行性羊流産		(届)
	C 鳥類クラミジア病〈オウム病〉		
	D 猫クラミジア感染症		
	E エールリキア〈エールリツヒア〉症		
3. 細菌性感染症	A 炭疽		(法)
	B 出血性敗血症		(法)
	C ブルセラ病		(法)
	D 結核病		(法)
	E ヨーネ病		(法)
	F 牛肺疫		(法)
	G 気腫疽		(届)
	H レプトスピラ症		(届)
	I サルモネラ症		(届)
	J 牛カンピロバクター症		(届)
	K 乳房炎		
	L パスツレラ症		
	M 悪性水腫		
	N エンテロトキセミア		
	O 大腸菌症		
	P 壊死桿菌症〈肝膿瘍〉		
	Q リステリア症		
	R ヒストフィルス・ソムニ〈ヘモフィルス・ソムナス〉感染症〈伝染性血栓塞栓性髄膜脳炎〉		
	S 膀胱炎及び腎盂腎炎《牛、豚》		
T 伝染性角結膜炎〈ピンクアイ〉			
U 放線菌症			
V 牛アクチノバチルス症			
W 牛の趾乳頭腫症〈趾皮膚炎〉			
X 牛デルマトフィルス症			
Y Q熱			

大項目	中項目	小項目	備考
	Z マイコプラズマ肺炎《牛、豚》		
	AA 鼻疽		(法)
	AB 類鼻疽		(届)
	AC 破傷風		(届)
	AD 馬伝染性子宮炎		(届)
	AE 馬パラチフス		(届)
	AF ロドコッカス・エクイ感染症		
	AG 腺疫		
	AH 萎縮性鼻炎		(届)
	AI 豚丹毒		(届)
	AJ 豚赤痢		(届)
	AK 豚胸膜肺炎		
	AL グレーサー病		
	AM 豚レンサ球菌症		
	AN 膿疱性皮膚炎〈滲出性表皮炎〉		
	AO 腸腺腫症候群		
	AP 豚アルカノバクテリウム・ピオゲネス症		
	AQ 豚のブドウ球菌症		
	AR 豚抗酸菌症		
	AS 豚のエルシニア症		
	AT 豚のマイコプラズマ関節炎		
	AU 家きんコレラ		(法)
	AV 家きんサルモネラ感染症〈ひな白痢、家きんチフス〉		(法)
	AW 鶏結核病		(届)
	AX 鶏マイコプラズマ病〈鶏呼吸器性マイコプラズマ病、家きんのマイコプラズマ滑膜炎〉		(届)
	AY 鶏パラチフス		
	AZ 鶏ブドウ球菌症		
	BA クロストリジウム病	a 壊死性腸炎 b 壊疽性皮膚炎 c ボツリヌス症	
	BB 伝染性コリーザ		
	BC 鶏大腸菌症		
	BD カンピロバクター症		
	BE ライム病		
	BF ヘモプラズマ症		
	BG ミンク出血性肺炎		



大項目	中項目	小項目	備考
③線虫	B 馬の条虫症〈葉状条虫、大条虫、乳頭条虫〉 C 牛の条虫症〈ベネデン条虫、拡張条虫〉 D 瓜実条虫症 E 有線条虫症 F 胞状条虫症 G 猫条虫症 H 多頭条虫症 I 単包条虫症 J 多包条虫症 K 有鉤条虫症 L 無鉤条虫症 M 小形条虫症 N 縮小条虫症 A 回虫症 B 蟻虫症 C 馬の円虫症〈馬円虫、普通円虫、無齒円虫〉 D 毛様線虫症 E 腸結節虫症〈牛腸結節虫、コロンビア腸結節虫、豚腸結節虫〉 F 鉤虫症〈犬鉤虫、猫鉤虫、牛鉤虫〉 G 肺虫症 H 鶏開嘴虫症 I 豚腎虫症 J 糞線虫症〈糞線虫、猫糞線虫、豚糞線虫、乳頭糞線虫〉 K 眼虫症〈ロデシア眼虫、東洋眼虫〉 L 食道虫症〈血色食道虫、美麗食道虫〉 M 胃虫症〈大口馬胃虫、小口馬胃虫、ハエ馬胃虫〉 N 顎口虫症〈有棘顎口虫、剛棘顎口虫、ドロレス顎口虫〉 O 犬糸状虫症 P パラフィラリア症 Q 指状糸状虫症〈脳脊髄セタリア症、溷睛虫症〉		



## II 中毒

大項目	中項目	小項目	備考	
1. 植物・飼料による中毒	A	ワラビ中毒《牛、馬》		
	B	スイートクローバー中毒		
	C	レンゲツツジ〈オニツツジ〉中毒		
	D	ユズリハ中毒		
	E	タマネギ中毒		
	F	ネジキ中毒		
	G	その他の植物中毒	a トリカブト b チョウセンアサガオ c バイケイソウ d キョウチクトウ e ソテツ f ドクゼリ g ドクウツギ h ヤツデ i キキョウ	
	H	硝酸塩中毒		
	I	ジャガイモ中毒		
	J	尿素中毒		
	K	エンドファイト中毒		
	L	食塩中毒		
	M	製造粕による中毒	a 棉実油粕、棉実 b ナタネ油粕 c 醬油粕	
	N	マイコトキシン中毒	a アフラトキシン	
	O	魚粉中毒		
	2. 農薬・化学物質による中毒	A	有機リン剤中毒	
		B	カーバメイト剤中毒	
		C	ピレスロイド剤中毒	
		D	有機フッ素剤中毒	
		E	有機塩素剤中毒	
F		砒素中毒		
G		銅中毒		
H		モリブデン中毒		
I		石炭酸中毒		
J		クマリン系殺鼠剤中毒		
K		除草剤中毒		

### Ⅲ 呼吸器系の疾患

大項目	中項目	小項目	備考
1. 鼻・副鼻腔の疾患	A 鼻の外傷		
	B 鼻出血		
	C 副鼻腔炎		
	D 鼻炎		
	E 鼻腔内腫瘍		
	F 副鼻腔蓄膿症		
2. 咽喉頭の疾患	A 喉頭炎		
	B 喉嚢炎		
	C 気嚢炎		
	D 喉嚢蓄膿症		
	E 喉頭片麻痺〈喘鳴症〉 《馬》		
	F 短頭種気道症候群		
3. 気管・気管支の疾患	A 気管損傷		
	B 気管炎		
	C 気管支炎		
	D 気管支拡張症		
	E 気管虚脱〈扁平気管〉		
	F 気管狭窄		
	G 気管内異物		
	H 腫瘍		
4. 肺の疾患	A 肺水腫		
	B 肺炎	a 細菌性肺炎 b ウイルス性肺炎 c 真菌性肺炎 d 寄生虫性肺炎 e アレルギー性肺炎 f 吸引性〈誤嚥性〉肺炎	
	C 肺出血〈咯血〉		
	D 肺気腫		
	E 無気肺〈肺虚脱〉		
	F 肺（血管）血栓塞栓症		
	G 肺膿瘍		
	H 肺腫瘍	a 原発性肺腫瘍 b 転移性肺腫瘍	
	I 肺線維症		
	5. 胸膜・縦隔・胸腔の疾患	A 損傷	
		B 胸膜炎	
		C 胸水（症）	
		D 気胸	
		E 縦隔気腫	
		F 腫瘍	

#### IV 循環器系の疾患

大項目	中項目	小項目	備考
1. 感染性循環器疾患	A 犬糸状虫症		
2. 心膜の疾患	A 心膜炎 B 創傷性心膜炎 C 心膜水腫 D 心膜血腫 E 心臓タンポナーデ		
3. 心臓の疾患	A 先天性心疾患	a 心房中隔欠損症 b 心室中隔欠損症 c 肺動脈狭窄症 d 動脈管開存症 e 卵円孔開存症 f Fallot四徴症 g 大動脈狭窄症 h 右大動脈弓遺残症	
	B 心臓弁膜症	a 僧帽弁閉鎖不全症 b 僧帽弁狭窄症 c 三尖弁閉鎖不全症 d 三尖弁狭窄症 e 大動脈弁閉鎖不全症 f 大動脈弁狭窄症 g 肺動脈弁閉鎖不全症 h 肺動脈弁狭窄症 i 連合弁膜症	
	C 急性循環不全、ショック D 心不全 E 肺性心 F 心臓調律異常〈不整脈〉 G 心臓の肥大と拡張 H 心筋炎 I 心筋症 J 心内膜炎 K 心内膜症 L 腫瘍 M ブロイラーの腹水症		
4. 血管の疾患	A 血管の損傷 B 血栓症 C 塞栓症 D 動脈瘤 E 動脈破裂 F 動脈硬化症 G 静脈瘤 H 静脈周囲炎 I 血管炎 J 腫瘍		
5. リンパ系の疾患	A リンパ節〈腺〉炎		

大項目	中項目	小項目	備考
	B リンパ管炎 C リンパ腫		

## V 消化器系の疾患

大項目	中項目	小項目	備考
1. 口腔・咽頭の疾患	A 口蓋裂、兔唇		
	B 口腔・舌の炎症		
	C 口腔内異物		
	D 口腔内腫瘍	a 悪性黒色腫〈メラノーマ〉 b 扁平上皮癌 c 線維肉腫 d エプーリス	
	E 軟口蓋過長症		
	F 舌の損傷		
2. 歯・下顎の疾患	A 発生異常		
	B 交換〈脱換〉異常		
	C 過剰歯		
	D 歯列・摩耗異常		
	E う歯		
	F 歯周病		
	G 歯槽骨膜炎		
	H 歯瘻		
	I 歯肉炎		
3. 唾液腺の疾患	A 耳下腺炎		
	B ガマ腫〈頸部嚢腫〉		
	C 唾液腺瘻		
	D 唾液腺嚢胞〈唾液腺嚢腫〉		
4. 食道の疾患	A 食道梗塞、食道異物		
	B 食道狭窄		
	C 巨大食道症		
	D 食道拡張、食道憩室		
	E 食道破裂		
	F 食道麻痺、アカラシア		
	G 食道炎		
	H 食道の腫瘍		
5. 反芻胃の疾患	A 第一胃鼓脹症		
	B 第一胃急性拡張〈第一胃食滞〉		
	C 前胃弛緩症		
	D 第一胃アシドーシス		
	E 第一胃アルカローシス〈第一胃腐敗症〉		
	F 第一胃パラケラトーシス		
	G 迷走神経性消化不良		
	H 創傷性第二胃・腹膜炎		
	I 第三胃炎		
	J 第三胃食滞〈第三胃塞栓〉		
	K 第四胃炎		
	L 第四胃潰瘍		

大項目	中項目	小項目	備考
6. 単胃の疾患	M 第四胃弛緩症〈第四胃食滞〉		
	N 第四胃変位		
	O 第四胃捻転		
	A 胃内異物		
	B 胃炎		
	C 急性胃拡張、過食疝		
	D 胃穿孔、胃破裂		
	E 胃捻転		
	F 胃拡張・捻転症候群		
	G 胃潰瘍		
	H 胃の腫瘍		
	I 幽門狭窄		
	J 噴門狭窄		
	7. 腸の疾患	A 腸閉塞	
B 腸重積			
C 腸の変位			
D 腸の穿孔・破裂			
E 腸内異物			
F 盲腸便秘			
G 盲腸の拡張〈弛緩〉・捻転			
H 結腸鼓脹症			
I 巨大結腸症			
J 結腸の捻転			
K 直腸憩室			
L 腸炎			
M X大腸炎			
N カタル性腸痙攣〈痙攣疝〉			
O 炎症性腸疾患〈IBD〉			
P 吸収不良症候群			
Q タンパク漏出性腸症			
R 十二指腸潰瘍			
S 小腸内細菌過剰増殖〈抗菌薬反応性腸症〉			
T 直腸脱			
U 腸の腫瘍		a 消化器型リンパ腫 b 腺腫、腺癌 c 平滑筋腫、平滑筋肉腫	
V 直腸ポリープ			
8. 肛門の疾患	W 疝痛		
	A 鎖肛		
	B 直腸腔瘻		
	C 肛門嚢炎		
	D 肛門周囲瘻		



## VI 泌尿器系の疾患

大項目	中項目	小項目	備考	
1. 腎臓の疾患	A 腎臓の外傷			
	B 腎臓の先天異常	a 嚢胞腎 b 腎低形成		
	C 萎縮腎	a 腎硬化症		
	D 腎膿瘍			
	E 腎臓の腫瘍			
	F 急性腎炎			
	G 慢性腎炎			
	H 間質性腎炎			
	I 腎不全	a 急性腎不全 b 慢性腎不全		
	J 糸球体腎症〈ネフローゼ症候群〉	a 糸球体腎炎 b アミロイドーシス		
	K 腎盂腎炎			
	L 腎石症〈腎臓結石〉			
	M 水腎症			
	N 尿毒症			
	O ファンコーニ症候群			
	2. 尿管の疾患	A 尿管破裂		
		B 尿管結石		
C 異所性尿管				
D 尿管栓塞				
E 尿管炎				
3. 膀胱の疾患	A 膀胱炎			
	B 膀胱結石症〈尿石症〉			
	C 膀胱破裂			
	D 膀胱麻痺			
	E 膀胱の腫瘍			
	F 膀胱憩室			
4. 尿道の疾患	A 尿道の損傷			
	B 尿道結石症			
	C 尿道閉塞			
	D 尿道炎			
	E 猫下部尿路疾患〈FLUTD〉			
	F 尿路感染症			

## VII 繁殖障害と生殖器系の疾患

大項目	中項目	小項目	備考
1. 雄の交尾障害と生殖障害	A 交尾不能症		
	B 交尾欲減退症・欠如症		
	C 生殖不能症	a 無精液症	
		b 精液減少症	
		c 無精子症	
		d 精子減少症	
		e 精子無力症	
		f 精子死滅症	
		g 血精液症	
		h 膿精液症	
2. 精巣・精巣上体の疾患	D 夏季不妊症		
	A 先天異常	a 無精巣症、単精巣症	
		b 潜在精巣〈停留精巣、陰辜〉	
		c 精巣形成不全	
	B 精巣変性		
	C 精巣炎		
	D 精巣の腫瘍	a 間質細胞腫	
		b 精上皮腫	
		c セルトリ細胞腫	
3. 副生殖腺の疾患	E 精巣上体炎		
	F 精液瘤		
	G 精子肉芽腫		
	A 精嚢腺炎		
	B 前立腺炎、前立腺膿瘍		
	C 前立腺肥大、前立腺嚢胞		
4. 包皮・陰茎・陰囊の疾患	D 傍前立腺嚢胞		
	E 前立腺の腫瘍		
	A 外傷		
	B 包茎、嵌頓包茎		
	C 陰茎彎曲		
	D 陰茎の腫瘍		
	E 陰茎強直症		
	F 亀頭包皮灸		
	G 陰囊水腫		
	H 陰囊炎		
5. 雌の生殖器の先天異常	I 陰囊ヘルニア		
	A フリーマーチン		
	B 間性	a 半陰陽	
	C 中腎傍管の部分的形成不全	a ホワイトヘイファー病	
	D 中腎傍管の隔壁遺残	a 重複外子宮口〈二重子宮口〉	
6. 陰門・膣前庭・膣の異常と疾患		b 肉柱	
	A 陰門狭窄	c 膣弁遺残	
	B 膣狭窄		

大項目	中項目	小項目	備考
7. 子宮・卵管の疾患	C 腔囊腫〈胞〉		
	D 尿腔		
	E 気腔		
	F 腔炎		
	G 顆粒性陰門腔炎		
	H 腔過形成〈腔脱〉		
	I 腫瘍		
	A 子宮頸管狭窄		
	B 子宮頸管閉鎖		
	C 子宮頸管炎		
	D 子宮内膜炎		
	E 子宮蓄膿症		
	F 子宮粘液症〈粘液子宮〉、 子宮水症		
	G 子宮筋炎		
H 子宮外膜炎			
I 子宮腫瘍			
J 卵管炎			
K 卵管水腫			
L 卵管蓄膿症			
8. 卵巣の疾患	A 卵胞発育障害	a 卵巣発育不全 b 卵巣静止 c 卵巣萎縮	
	B 排卵障害	a 排卵遅延 b 無排卵	
	C 卵巣囊腫	a 卵胞囊腫 b 黄体囊腫	
	D 黄体形成不全	a 発育不全黄体 b 囊腫様黄体	
	E 黄体遺残		
	F 卵巣炎		
	G 卵巣腫瘍		
9. リピートブリーディング	A リピートブリーディング	a 受精障害 b 早期胚死滅	
10. 妊娠期の異常	A 流産、早産、死産	a 伝染性流産 b 散発性流産	
	B 長期在胎		
	C 腔脱		
11. 胎子の異常	D 子宮捻転		
	E 子宮ヘルニア		
	A 胎膜水腫	a 羊膜水腫 b 尿膜水腫	
	B 胎子の死	a 胎子ミイラ変性 b 胎子浸漬 c 気腫胎	

大項目	中項目	小項目	備考
12. 分娩の異常、難産	C 胎子の奇形・先天異常 A 陣痛の異常  B 産道の異常  C 胎子過大 D 胎子の失位	d 水腫胎  a 陣痛微弱 b 強陣痛 a 陰門狭窄 b 膣狭窄 c 子宮頸管狭窄 d 骨盤狭窄  a 胎位異常 b 胎向異常 c 胎勢異常	
13. 分娩後の疾患	E 胎盤停滞（後産停滞） A 産道の損傷 B 子宮脱 C 膀胱脱 D 産褥性子宮炎 E 悪露停滞症 F 産褥熱 G 子宮炎－乳房炎－無乳症 症候群 H 産褥麻痺（乳熱） I ダウナー牛症候群（産前 ・産後起立不能症） J 産褥痙攣（産褥性硬直、 産後急痛）		

## VIII 運動器系の疾患

大項目	中項目	小項目	備考
1. 筋肉の疾患	A 損傷		
	B 筋炎	a 多発性筋炎	
	C 先天異常		
	D ミオパシー		
	E 筋の萎縮		
	F 筋の拘縮		
	G 腫瘍		
	H 白筋症		
	I 重症筋無力症		
	J 麻痺性筋色素尿（血）症 《牛、馬》		
2. 腱の疾患	A 腱炎		
	B アキレス腱断裂		
	C 腱鞘炎		
3. 靭帯の疾患	A 前十字靭帯断裂		
	B 側副靭帯断裂		
	C 半月板損傷		
4. 滑液胞の損傷	A キ甲腫		
	B 肘腫		
	C 膝瘤		
5. 骨・関節の疾患	A 骨の炎症	a 骨膜炎 b 骨髓炎 c 汎骨炎 d 外骨症〈骨瘤〉	
	B 骨の腫瘍	a 原発性骨腫瘍 b 転移性骨腫瘍	
	C 骨折	a 骨折の分類 b 骨折の治癒機転 c 整復・固定法 d 骨移植	
	D 骨の発育異常		
	E ハイエナ病		
	F 硬膜化骨症		
	G 股関節形成不全〈股異形成〉		
	H 肘関節形成不全〈肘異形成〉		
	I レッグ・ペルテス病		
	J 離断性骨軟骨症〈炎〉		
	K 関節の損傷		
	L 捻挫		
	M 関節炎	a 免疫介在性多発性関節炎 b 関節リウマチ c 感染性関節炎	

大項目	中項目	小項目	備考
6. 蹄・爪の疾患	N 関節の拘縮・硬直 O 変形性関節症〈骨関節症〉 P 脱臼 A 釘傷 B 踏創 C 蹄血斑・挫跖 D 蹄球炎 E 蹄皮炎 F 趾間腐爛 G 裂蹄 H 白帯裂〈白線裂〉 I 蟻洞 J 蹄叉腐爛 K 蹄葉炎 L 蹄球びらん M 蹄底潰瘍 N 舩囊炎 O 蹄関節炎 P 爪の疾患 Q 趾皮膚炎		

## Ⅸ 神経系の疾患

大項目	中項目	小項目	備考	
1. 脳の疾患	A 先天異常	a 小脳形成不全 b 水頭症		
	B 脳外傷			
	C 脳炎			
	D 脳腫瘍	a 原発性脳腫瘍 b 転移性脳腫瘍		
	E 脳水腫			
	F 大後頭孔形成不全症			
	G リソソーム病〈リソソーム蓄積病〉			
	H 脳虚血			
	I 脳充血			
	J 髄膜脳炎	a 壊死性髄膜脳炎〈パグ髄膜脳炎〉 b 肉芽腫性髄膜脳炎		
	K 大脳皮質壊死症			
	L 脳軟化			
	M ダンス病			
	N 先天性痙攣症			
	O 豚ストレス症候群			
	P 発作性障害	a てんかん		
	Q 動揺病			
	R 代謝性脳障害	a 肝性脳症 b 低血糖		
	2. 脊椎・脊髄の疾患	A 先天性異常	a クモ膜嚢胞 b 脊髄空洞症 c 水脊髄症	
		B 環椎軸椎亜脱臼		
C 頸椎不安定症		a ウォブラー症候群《馬、犬》		
D 脊髄外傷				
E 脊髄炎				
F 脊髄・脊椎腫瘍				
G 変形性脊椎症				
H 椎間板疾患		a ハンセンⅠ型 b ハンセンⅡ型 c 頸部椎間板疾患 d 胸腰部椎間板疾患		
I 馬尾症候群				
J 椎間板脊椎炎				
K 脊髄梗塞		a 線維軟骨塞栓症		
L 脊髄軟化症				
3. 末梢神経系の疾患		A 脳神経損傷	a 前庭障害〈捻転斜頸〉	
	B 末梢神経損傷〈ニューロパシー〉	a 多発性神経根神経炎《犬》		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	C 炎症 D 変性 E 腫瘍		

## X 感覚器系の疾患

大項目	中項目	小項目	備考
1. 眼の疾患			
①眼瞼・第三眼瞼の疾患	A 眼瞼外傷 B 眼瞼炎 C 眼瞼内反症・外反症 D 睫毛乱生、睫毛重生、異所性睫毛 E 第三眼瞼突出症〈チェリー・アイ〉		
②鼻涙系・結膜・角膜の疾患	A 涙管狭窄 B 乾性角結膜炎 C 結膜炎 D 角膜外傷 E 角膜炎 F 角膜潰瘍 G デスメ瘤 H 角膜ジストロフィー		
③ブドウ膜の疾患	A ブドウ膜炎 B Vogt-小柳-原田様疾患		
④水晶体の疾患	A 白内障 B 水晶体脱臼		
⑤緑内障	A 急性緑内障 B 慢性緑内障		
⑥眼底の疾患	A 網膜剥離 B 視神経炎 C 進行性網膜萎縮 D コリー眼異常		
⑦眼の腫瘍	A 原発性腫瘍 B 転移性腫瘍		
2. 耳の疾患	A 耳血腫 B 外耳炎 C 中耳炎 D 内耳炎 E 耳道腫瘍 F 聴覚障害		

## X I 血液・免疫系の疾患

大項目	中項目	小項目	備考
1. 赤血球系の疾患	A 溶血性貧血		
	B 失血性貧血		
	C 赤血球産生障害による貧血	a 再生不良性貧血 b 鉄欠乏性貧血 c 巨赤芽球性貧血 d 栄養障害性貧血 e 腎性貧血	
	D 赤血球増加症		
	E 先天性赤血球異常症		
2. 白血球系の疾患	A 白血球増加症・減少症〈好中球、好酸球〉		
	B 好中球機能異常症		
	C リンパ球及び免疫組織の異常による疾患		
3. 出血性疾患	D 牛白血球粘着不全症		
	A 血小板の異常		
	B 先天性血液凝固異常		
	C 後天性血液凝固異常		
4. リンパ造血器腫瘍	D 播種性血管内凝固〈DIC〉		
	A リンパ腫		
	B 白血病		
	C 慢性骨髄増殖性疾患		
5. 免疫不全	D 形質細胞腫、多発性骨髄腫		
	A 先天性免疫不全		
6. 免疫介在性多臓器疾患	B 後天性免疫不全		
	A 全身性紅斑性狼瘡		
7. 脾臓の疾患	B 食物アレルギー		
	A 脾腫		
	B 脾臓の損傷		
	C 脾臓の腫瘍		
	D 外傷性脾炎		

## X II 内分泌・代謝系の疾患

大項目	中項目	小項目	備考
1. 下垂体の疾患	A 尿崩症	a 中枢性尿崩症 b 腎性尿崩症	
	B 下垂体機能亢進症〈先端肥大症〉	a 下垂体腺腫	
	C 下垂体機能低下症〈下垂体性矮小症〉		
2. 甲状腺の疾患	A 甲状腺機能亢進症		
	B 甲状腺機能低下症		
	C 甲状腺の腫瘍		
	D 甲状腺炎		
3. 上皮小体の疾患	A 上皮小体機能亢進症		
	B 上皮小体機能低下症		
4. 副腎の疾患	A 副腎皮質機能亢進症		
	B 副腎皮質機能低下症		
	C 副腎の腫瘍	a 副腎皮質の腫瘍 b 副腎髄質の腫瘍	
5. 膵臓の疾患	A インスリノーマ		
	B 糖尿病		
6. 性腺の疾患	A エストロジェン〈エストロゲン〉過剰症		
7. ビタミンの代謝障害	A ビタミンA欠乏症・過剰症		
	B ビタミンB群欠乏症		
	C ビタミンC欠乏症	a 壊血病	
	D ビタミンD欠乏症・過剰症		
	E ビタミンE〈トコフェロール〉欠乏症【セレン欠乏症を含む。】		
	F ビタミンK欠乏症		
8. 無機物の代謝障害	A 骨軟化症、くる病		
	B グラステタニー		
	C 子牛の低マグネシウム血症性テタニー		
	D 輸送テタニー		
9. 微量元素の欠乏症	A コバルト欠乏症〈くわず病〉		
	B 銅欠乏症		
	C 鉄欠乏症		
	D 亜鉛欠乏症		
	E マンガン欠乏症		
	F ヨウ素欠乏症〈単純性甲状腺腫〉		
10. タンパク質の代謝障害	A 低タンパク血症		
	B アミロイドーシス		

大項目	中項目	小項目	備考
11. 糖質・脂質の代謝障害	A ケトーシス《牛》 B 脂肪肝〈肥満牛症候群〉 C 肥満症 D 黄色脂肪症 E 汎脂肪織炎〈猫の黄色脂肪症〉 F 脂肪壊死症 G 高脂血症 H 低血糖症		
12. 水・電解質の代謝異常	A 脱水症 B 浮腫 C 酸塩基平衡の異常 D 血清電解質の異常 E 子牛発作性血色素尿症		
13. その他	A 熱射病〈日射病〉 B 寒冷感作		

### XIII 皮膚の疾患

大項目	中項目	小項目	備考		
1. 感染性皮膚疾患	A 伝染性膿疱性皮膚炎		(届)		
	B 牛の趾乳頭腫症〈趾皮膚炎〉				
	C 牛デルマトフィルス症				
	D 膿皮症				
	E 膿疱性皮膚炎〈滲出性表皮炎〉				
	F 皮膚糸菌状菌症				
	G カンジダ症				
	H 顆粒性皮膚炎				
	I マラセチア皮膚炎				
	2. 寄生虫性皮膚疾患	A パラフィラリア症			(届)
		B 沖縄糸状虫症〈鼻鏡白斑症〉			
C マダニ症					
D 鶏ダニ症					
E ツメダニ症					
F ツツガムシ症					
G 疥癬					
H 耳疥癬					
I 毛包虫症					
J シラミ症					
K ハジラミ症					
L ノミ症					
M 吸血昆虫による皮膚疾患					
N 牛バエ幼虫症					
O リーシュマニア症					
3. 皮膚搔痒症、蕁麻疹	A 皮膚搔痒症		(届)		
	B 蕁麻疹				
4. 先天性皮膚疾患	A 色素欠乏症		(届)		
	B エーラス・ダンロス症候群				
5. 炎症性皮膚疾患	A 湿疹		(届)		
	B 接触性皮膚炎				
	C アトピー性皮膚炎、アレルギー性皮膚炎				
	D 牛のワヒ〈コセ〉				
	E 夏癬				
	F 脂漏				
	G 痤瘡				
	H 光線過敏症				
	I 薬疹				
	J 熱傷、凍傷				
	6. 免疫介在性皮膚疾患	A 免疫介在性皮膚疾患			(届)
B 天疱瘡、類天疱瘡					

大項目	中項目	小項目	備考
7. 栄養・内分泌障害 性皮膚疾患	A 角化異常 B 被毛異常 C 黒色棘皮症〈黒色表皮肥 厚症〉	a 脱毛症	
8. 皮膚の腫瘍	A 乳頭腫 B 肥満細胞腫 C 扁平上皮癌 D 悪性黒色腫〈メラノーマ〉 E 組織球腫		
9. その他の皮膚疾患	A 好酸球性肉芽腫		
10. 皮下織の疾患	A 蜂窩織炎 B 褥瘡 C 潰瘍 D 瘻孔		



## XV 新生子の疾患

大項目	中項目	小項目	備考
1. 先天性疾患	A 鎖肛、直腸閉鎖		
	B 水頭症、水無脳症	a 感染性 b 遺伝性	
	C ネオスポラ症		
	D 新生虚弱子症候群		
2. 出生時の疾患	A 臍炎		
	B 尿膜管開存		
	C 新生子仮死		
3. 出生直後の疾患	A 胎便停滞		
	B 臍ヘルニア		
	C 受動免疫不全		
	D 感染症	a 細菌性 b ウイルス性 c 寄生虫性	
	E 新生子黄疸		